首都大学東京　人文科学研究科　日本語教育学教室
15865106
徐　晗智（ジョ　ガンチ）

要　旨

最近、やさしい日本語の研究がよくなされており、文章の硬さ、柔らかさは和語と漢語の使用率に関係があり、漢語動詞を和語動詞に書き換えると文章をやさしくする効果があることが証明された。筆者が書いた学術的なレポートや論文は、多少日本語母語話者が書いたものと異なり、子供っぽいと感じ、言語運用のコンプレックスを感じてしまう。そこで、考えたのは、文章の硬さ、柔らかさには、漢語動詞の多用が影響を与えているのではないかということである。本研究では、そのような仮説を立てて、今回の研究で明らかにしたいのは三点である。①日本語母語話者と学習者の和語・漢語動詞の使用率の差異を明らかにする。②和語・漢語動詞の使用率は文章の内容に関係しているかどうか、さらに、和語動詞と漢語動詞の使用率の観点から、学習者と日本語母語話者が一致するのかどうかを明らかにする。③学習者と日本語母語話者の和語・漢語動詞の使用差異を引き起こす原因を明らかにし、また、書き換え候補となる和語動詞と漢語動詞のペアを学習者に提案する。そこで、本研究は『日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース』と『YUN 書き言葉コーパス』を用いて、量的研究と質的研究を行った。

その結果、「意見文データ」において、学習者の漢語動詞の使用は日本語母語話者より少ないことが明らかになり、レポートなどのやや硬い文章を書く際に、文章の「硬さ」が足りず、これが不自然な文章だと思われる原因だと考えられる。

次に、『YNU 書き言葉コーパス』を調査した結果、和語動詞と漢語動詞の使用頻度は文章の内容に関係があることがわかった。そこで、和語動詞と漢語動詞が多用するタスクとそれぞれの特徴をまとめた。このように、和語動詞と漢語動詞の使用率において、母語話者と学習者の使用差異があることを明らかにした。

最後に、「意見文データ」と『YNU 書き言葉コーパス』のデータを用いて、母語話者と学習者で、和語動詞と漢語動詞の使用に差異が見られた語をいくつか取り上げた。そして、母語話者が多用し、類義語関係にある和語動詞と漢語動詞で書き換え候補となるペアを提案した。

目次

1.はじめに 3
2.先行研究 4
2.1「やさしい日本語」についての研究 4
2.2 語種と文体 5
2.3 学習者とアカデミックな日本語 6
2.4 文章のジャンルとジャンル別の研究 7
3.研究方法 9
3.1 研究目的 9
3.2 研究対象 9
3.3 研究の手順 9
3.4 データについて 10
3.4.1 使用するデータ 10
3.4.2 データの抽出手順 10
3.4.3 品詞の判定 11
3.4.4 手作業によるデータの修正・削除 11
3.4.5 検索条件 12
4.研究結果 13
4.1 意見文データの分析 13
4.1.1 日本語母語話者と中国・韓国語母語話者の和語動詞と漢語動詞の使用率の差異 13
4.1.2 日本・中国・韓国の延べ語数及び異なり語数による違い 14
4.2 意見文データの質的分析 18
4.2.1 目的 18
4.2.2 分析手順 18
4.3 分析結果 19
4.3.1 和語動詞と漢語動詞の使用実態 19
4.3.2 表記の説明 21
4.3.3 使用回数の差異が見られる漢語動詞の分析 21
4.3.4 使用回数の差異が見られる和語動詞の分析 31
4.4『YNU 書き言葉コーパス』における 12 タスクの分析 34
4.4.1「YNU 書き言葉コーパス」の各タスクについて 34
4.4.2 各タスクにおける日本語母語話者と学習者の和語動詞と漢語動詞の使用数 35
4.4.3 日本・中国・韓国の延べ語数及び異なり語数による違い 37
4.4.4 和語動詞と漢語動詞の使用とタスクの関係 39
4.4.5 和語動詞を漢語動詞に書き換える必要性について 43
4.4.6 母語話者と学習者の和語動詞と漢語動詞の使用差異 44
4.4.7 差異の分析 47
4.4.8「意見文データ」と『YNU 書き言葉コーパス』の比較 50
5.まとめ 50
6.今後の課題 53
参考文献 54

日本語学習者と日本語母語話者の和語動詞と漢語動詞の使用実態の差異

―作文・意見文を中心に―

1. はじめに

日本語の語種は、一般的に、和語・漢語・外来語・混種語の四種である。国立国語研究所（1972）では、「一般的な傾向として、漢語は硬く、書き言葉に用いられることが多い。和語はやわらかく、話し言葉に用いられることが多い」と述べている。また、陳（2011）では「日本語の動詞には和語動詞、漢語動詞、混種語動詞と外来語動詞が存在する。類義関係である和語動詞と漢語動詞が少なくない」と述べている。

たとえば、以下は lang-8 というウェブサイトで掲載された、ある学習者が授業で配られた文（１）をやや硬い書き言葉を使い、学習者自身の判断で易しいレポートぐらいのレベルの文に書き直してみたもの文（２）である。

（１）　原文

もともとあったいじめがインターネットの世界に移っただけであり、インターネットを使ってコミュニケーションをとること自体は全然悪いことではない。子どもにインターネットを使わせないのではなくて、インターネットの正しい利用法を教えたほうがいい。そうすれば、インターネットを使ったいじめは減ると思う。

（２）　書き換えた文章（語彙と文型の書き換えが主）

もともと存在したいじめがインターネットの世界に移行しただけであり、インターネットを利用してコミュニケーションをとること自体は何ら悪いことではないからである。児童生徒にインターネットの使用を禁じるのではなく、インターネットの正しい利用法を指導すべきである。そうすれば、インターネット上におけるいじめは減少するであろう。

文１から文２は、話し言葉からやや硬い書き言葉への変化が見られるであろう。直した箇所を見てみると、和語動詞から漢語動詞の書き換えが多いが、それ以外に名詞と文型などの変化が見られる。筆者は、文の硬さは漢語動詞の多用と関係があることを明ら

かにするために、和語動詞から漢語動詞への書き換えだけを行い、文（３）を作成した。

（３）　書き換えた文章（和語動詞から漢語動詞への書き換えが中心）

もともと存在したいじめがインターネットの世界に移行しただけであり、インターネットを利用してコミュニケーションをとること自体は全然悪いことではない。子どもにインターネットを使用させないのではなく、インターネットの正しい利用法を指導したほうがいい。そうすれば、インターネットによるいじめは減少すると思う。

そのように、文（３）と文（１）を比べると、少しでも文章の硬さに変化が見られるであろう。そのように、筆者は、漢語動詞への変換は文章を書き言葉らしくするための鍵だと考えている。

話し言葉と書き言葉についての研究はよくなされており、「日本語基本用語辞典」では、話し言葉や書き言葉の定義、特徴などが明らかにされている。また、留学生に対し、レポートや論文に必要な論理的な文章の書き方を指導するために、石黒・筒井（2009）では、副詞、接続詞、接続助詞、文末表現について「話し言葉」「書き言葉」に分類した表を作成した。しかし、筆者は分類表に従って書いた学術的なレポートや論文でも、多少ネーティブの人が書いたものと異なり、子供っぽいと感じ、言語運用のコンプレックスを感じてしまう。そこで、筆者が考えたのは、今解明させた石黒・筒井（2009）の結果の表以外に、文章の硬さ、柔らかさには、漢語動詞の多用が影響を与えているのではないかと考える。

そこで、本研究では日本語学習者と日本語母語話者の作文・意見文における和語動詞と漢語動詞の使用実態の差異を明らかにする。使用の差異が分かれば、それを改善することで、学習者は日本語母語話者の文章作成能力に近づけるであろう。

2. 先行研究

2.1「やさしい日本語」についての研究

近年、「やさしい日本語」の研究が盛んである。その研究の中には、公的文書を「やさしい日本語」に書き換えた際の語の増減を明らかにした森（2013）がある。

その結果をまとめると表 1、表 2 になる。（下線は筆者が漢語動詞に施した）

表 1. 実質語において原文から頻度が減少した語

原文-逐語訳（95%以上減少した語）	計
当該　伝達　限る　御覧　蒸気　定める　把握　且つ　努める　連携　持参　帯び　恐れ　同居　住まい　訂正　下記　購入　充実　配慮　月額　了承　記入　掲げる　保有　措置　共　規定　該当　様々　改正　旨　送付　図る　有する　原則　係る　及び　開始　設定　設置　改修　回収　収集　自己　策定　入所　製造　適用　事前　啓発　軽減　実施	合計 53 漢語動詞 28

表 2. 実質語において原文から頻度が増加した語

5 倍以上増加した語	計
書く　家　作る　決める　金　仕事　名前　入る　使う　どう　貰う　人　聞く　所　沢山　下　税金　新しい　一緒　守る　住む　水　行く　気　少ない　それ	合計 26 和語動詞 10

森(2013)は「減少したのは、品詞別に特徴を見てみると、「伝達」「持参」「購入」といった漢語動詞が多いことが分かる。これらは「伝える」「持ってくる」「買う」など和語動詞に書き換えられている。一方で和語動詞でも、「限る」「定める」「図る」など、減少した語のリストに上がっており、機械的に和語動詞を使えばいいという基準では不十分であることが明らかになる」と述べている。森（2013）の研究によると、「公的文章をやさしい日本語に書き換えると、漢語動詞の減少が多いことが分かる。それに対し、和語動詞が相対的に増加したが、特例があり、機械的に和語動詞を使えるわけではない」と指摘した。筆者はそれと同じように、和語動詞を漢語動詞に書き換えると書き言葉らしくなる効果があるが、学術的な文章において、すべての和語動詞を漢語動詞に書き換えればいいというわけではないと考える。

2.2 語種と文体

話し言葉と書き言葉についての研究は多くなされており、話し言葉や書き言葉の定義、特徴などが明らかにされている（日本語基本用語辞典)。また、石黒・筒井（2009）では具体的には副詞、接続詞、接続助詞、文末表現など、品詞ごとの使い分けも整理されている。

石黒（2015）によると、なじみ度の強い「仕事」「勉強」「テレビ」「ラジオ」といった語は別であるが、一般に、漢語や外来語のほうが和語よりも硬い印象があることが明らかになった。和語とほぼ同じ意味を表わす漢語が存在する場合、それは和語よりも専門的で意味が厳密な印象があるためである。

2.3 学習者とアカデミックな日本語

呉（2007）では以下のように述べている。

> 類義語の類似性を把握してニュアンスの違いを分かることは日本語らしい表現につながるので重要な意味を持つ。特に上級段階に進むにつれ動詞の数は急激に増え、動詞は多様な意味を含んでいるので、学習者が動詞類義語の微妙な意味のずれを知り、正確で具体的な日本語を用いることは難しい。（中略）
>
> 語彙の選択の問題が見られる。意見文での漢語の使用について、硬い文章では漢語を多用したほうがいいといった文体上の問題と学習者は考えていた。しかし、語の意味をより限定して詳述するといった観点から漢語の語彙の選択をする場合もある。例えば、「する」ではなく「行う」を選択する場合、「行う」ではなく「行動する」「活動する」といった漢語による意味の限定・詳述をする場合である。書き言葉と話し言葉の違いの認識や、レポートにふさわしい書き言葉の認識があいまいだと言える。（pp. 151）

筆者もレポートを書く際に、普段日常会話で使用している語彙は使用できるかどうかという疑問を持ち、不安を感じた。そうすると、なるべく“やさしい”文章に和語を使い、レポートや論文のような“硬い文章”を書く際に、漢語動詞の使用することを心かけている。しかし、“柔らかい文章”の場合和語動詞を多用すべき、“硬い文章”の場合漢語動詞を多用すべきなのは正しいかどうかを考察したい。

内丸（2012）の研究では、中級あるいは上級の日本語コースで学ぶ 36 名の留学生に対する学習ニーズを調査した結果、「アカデミックな日本語を勉強したいか」について、「強く思う」は 16 人、「やや強く思う」は 13 人、「普通だと思う」は 5 人で、「あまりそう思わない」は 1 人、「そう思わない」は 1 人であった。このことから、アカデミックな日本語、語彙の硬さ・柔らかさの区別を学びたいという学習のニーズが非常に高いことが分かる。「アカデミックな場面において、今すぐに必要としている日本語がレポートを書くことだという事情を考慮すると，書き言葉 について類似表現の硬さ・柔ら

かさの区別を示し，どのような文脈で使用するのが適切かを教科書や授業でもっと説明してもらいたい」と述べている。「書き言葉についてどのくらい硬い表現なのか，どのようなジャンルで使われるのか，どのような相手に使えばいいのかなどを，教科書や授業でもっと説明してもらいたい」という設問について、「強く思う」は 14 人、「やや強く思う」は 12 人、「普通だと思う」は 7 人、「あまりそう思わない」は 2 人と「そう思わない」は 1 人であった。

ここからは、アカデミックな日本語、語彙の硬さ・柔らかさの区別、またレポートや論文などで使用する書き言葉に相応しい表現の学習ニーズが高いことが明らかになった。そのような学習ニーズから、書き言葉に関する教育が不足している現状が見られるだろう。

筆者は日本語学習者として、自身の経験を述べると、中国(2 年)と日本（2 年）の大学で日本語を 4 年間の日本語学習期間の中で、石黒・筒井（2009）の結果の表以外に、語彙の硬さ、柔らかさなどをほとんど教えてもらえなかった。しかし、実際的に石黒・筒井（2009）の結果の表以外、“硬い文章”の中に使用すると、不自然な表現が非常にあり、それは指導教員によく指摘された。しかし、それは学習者として、なかなか自分自身で気づかないことである。筆者も多くの日本語学習者と同じように、「アカデミックな日本語」また「書き言葉に相応しい表現」などについて学びたい。

2.4 文章のジャンルとジャンル別の研究

ジャンルによってその文体の特徴にはさまざまな差異が見られる。宮内（2012）は接続助詞とジャンル別文体の特徴の関連について調べ、各ジャンルの接続助詞の出現率を確認し、接続助詞の持つ文体に関連する特徴について考察した。廣・伊藤・古延(1995)は「自然言語テキストは、文章の属する分野、またはジャンルによって用いられる言葉の種類も用法も異なると考えられ、分野依存の語彙体系が求められる」と述べている。

児玉（2012）は、旧日本語能力試験 1-4 級までに含まれているサ変動詞を中心としたから 3200 弱のサ変動詞を和語動詞に書き換え表現を用いることにした。それは以下のようなものである。

表 3. サ変動詞の書き換えリスト

サ変動詞	書き換え
喪失する	失う
損失する	失う
発射する	撃つ
移行する	移す
複写する	写す
訴訟する	訴える
感染する	うつる
移転する	うつる
促進する	つながる
配布する	配る

このように作成した書き換え表現ペアのリストを用い、やさしい日本語支援システムを作成した。

川村（2013）では、「やさしい日本語」への書き換えリストは作られ、書き換えシステムに応用されている。

以上の先行研究をまとめると、文章の硬さ、柔らかさは和語と漢語の使用率に関係があり、漢語動詞を和語動詞に書き換えると文章をやさしくする効果がある。それに、和語は漢語と外来語より、硬い印象があることと漢語は和語より専門的で意味が厳密な印象があることが明らかになった。漢語動詞を和語動詞に書き換える 3200 弱の書き換えリストが作られ、やさしい日本語支援システムが作成られた。しかし、硬い文章において、なるべく漢語動詞を使用し、和語動詞を使用できないというわけではない。また、学術的な文章において、すべての和語動詞を漢語動詞に書き換えればいいというわけでもない。話し言葉と書き言葉においては、定義、特徴、また品詞ごとの使い分けが整理されているが和語動詞と漢語動詞はどのように使い分け、どう書き換えるのに及ばない。学習者はある程度の日本語レベルになるにつれ、動詞の類義語の微妙な意味のずれが分かり、正確で具体的な日本語を用いることの困難さに気づく。アカデミックな日本語、語彙の硬さ・柔らかさの区別への日本語学習へニーズが非常に高いことが明らかになっ

た。しかし、自分自身の経験から言うと、現在の日本語教育では、語彙の硬さ・柔らかさの区別の指導が足りないと考えている。

3.研究方法

3.1 研究目的

本論文の目的は以下の三つである。

まず、日本語母語話者と学習者の和語・漢語動詞の使用率の差異を明らかにする。次に、和語・漢語動詞の使用率は文章の内容に関係しているかどうかを明らかにする。和語動詞と漢語動詞の使用率の観点から、学習者と日本語母語話者が一致すのかどうかを明らかにする。最後は、学習者と日本語母語話者の和語・漢語動詞の使用差異を引き起こす原因を明らかにする。以上の三点を明らかにする。

3.2 研究対象

本稿で扱う漢語動詞は二つの漢字で構成される二字漢語動詞に限定し、基本形として「二字漢語＋する」という形を取る。

「有ずる」「対する」「属する」などの「漢字一文字＋する/ずる」の場合は、形態素解析の結果より、「動詞-一般」の「サ行変格」に属するため、漢字を含んでいる、和語動詞ととらえる。また、「頑張る」「退治る」のような単語は二つの漢字で構成されていても、和語動詞としてとらえる。

3.3 研究の手順

本研究では以下の順に調査を行う。

まず、同じテーマで書かれた「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」と「YUN 書き言葉コーパス」のデータから、日本語母語話者と学習者の和語動詞と漢語動詞の使用率に違いがあるかどうかを検証する。

次に、「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」から、頻度が上位 20 位の和語動詞と漢語動詞を抽出し、抽出した動詞の差異を分析する。その結果に応じ、論文やレポートを書く際に、類義関係である和語動詞を漢語動詞に書き換える和語動詞と漢語動詞のペアを探す。

さらに、「YNU 書き言葉コーパス」を用いて、12 種類のタスク別に、和語動詞と漢語動詞の使用率を算出し分析する。もし、日本語母語話者のデータは、各タスクの内容に

よって、和語動詞と漢語動詞の使用率の特徴が見られる場合、学習者のデータで同様の特徴が見られるか考察する。

最後は、「YNU 書き言葉コーパス」から、各タスクで、使用頻度と順位の差が見られる語彙を対象に、差異が生じた原因を明らかにする。

3.4 データについて

3.4.1 使用するデータ

本研究では以下の二つのデータを利用する。

まず一つは、『日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース』であり、このコーパスは日本語を母語とする大学生 134 名、日本語を学ぶ台湾の学習者 57 名、韓国の学習者 55 名が「インターネットが普及する現在、新聞と雑誌が必要かどうか」について日本語で書いた意見文を収録したものである。（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/terms.html）。

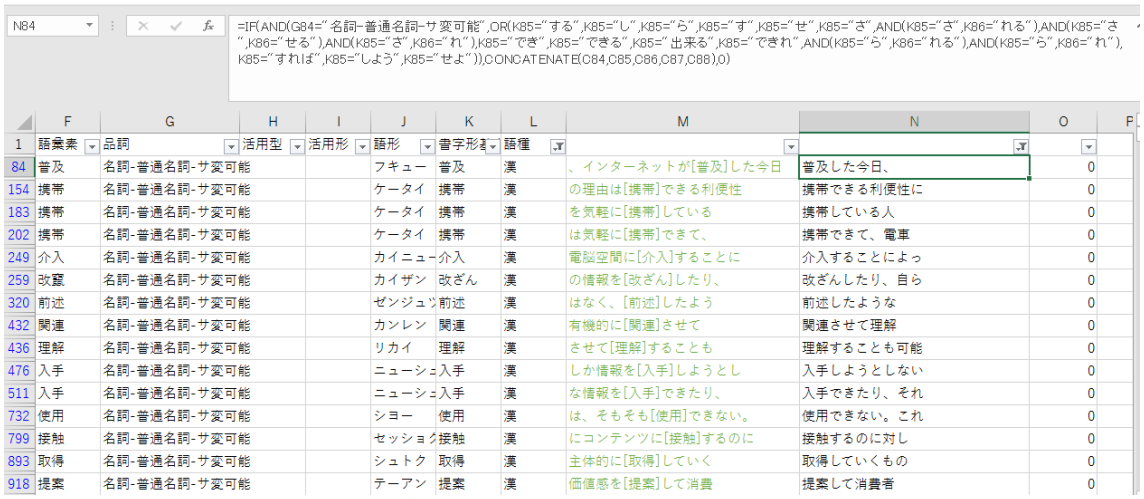
もう一つは、『YNU 書き言葉コーパス』（金澤,2014）であり、『YNU 書き言葉コーパス』は日本語母語話者と非母語話者（中国語・韓国語）各 30 名が全 12 種のタスク書き言葉資料（日本語作文等）である。

3.4.2 データの抽出手順

データを形態素解析にかけ、Excel に出力する。本研究は「語彙素」のデータを扱う。漢語動詞を以下で説明する検索条件を用い、抽出する。和語動詞はフィルターにかけ、品詞を「動詞－一般」に設定し、抽出する。外来語動詞の抽出はフィルターにかけ、品詞を「名詞―普通名詞―サ変可能」に設定し、語種を「外来語」に設定する。

以上のように、和語動詞、漢語動詞、外来語動詞をそれぞれに抽出し、Excel で集計する。

データの処理は形態素解析ソフトである「茶まめ」（http://download.unidic.org/）を利用し、形態素解析を行う。以下は形態素解析にかけ、Excel に出力された画面である。



N84

=IF(AND(G84="名詞-普通名詞-サ変可能",OR(K85="する",K85="し",K85="ら",K85="す",K85="せ",K85="さ",AND(K85="さ",K86="れる"),AND(K85="さ",K86="せる"),AND(K85="さ",K86="れ"),K85="でき",K85="できる",K85="出来る",K85="でれ",AND(K85="ら",K86="れる"),AND(K85="ら",K86="れ"),K85="すれば",K85="しよう",K85="せよ")),CONCATENATE(C84,C85,C86,C87,C88),0)

	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	語彙素	品詞	活用型	活用形	語形	書字形基	語種				
84	普及	名詞-普通名詞-サ変可能			フキュー	普及	漢	、インターネットが[普及]した今日	普及した今日、	0	
154	携帯	名詞-普通名詞-サ変可能			ケータイ	携帯	漢	の理由は[携帯]できる利便性	携帯できる利便性に	0	
183	携帯	名詞-普通名詞-サ変可能			ケータイ	携帯	漢	を気軽に[携帯]している	携帯している人	0	
202	携帯	名詞-普通名詞-サ変可能			ケータイ	携帯	漢	は気軽に[携帯]できて、	携帯できて、電車	0	
249	介入	名詞-普通名詞-サ変可能			カイニュー	介入	漢	電脳空間に[介入]することに	介入することによっ	0	
259	改竄	名詞-普通名詞-サ変可能			カイザン	改ざん	漢	の情報を[改ざん]したり、	改ざんしたり、自ら	0	
320	前述	名詞-普通名詞-サ変可能			ゼンジュツ	前述	漢	はなく、[前述]したよう	前述したような	0	
432	関連	名詞-普通名詞-サ変可能			カンレン	関連	漢	有機的に[関連]させて	関連させて理解	0	
436	理解	名詞-普通名詞-サ変可能			リカイ	理解	漢	させて[理解]することも	理解することも可能	0	
476	入手	名詞-普通名詞-サ変可能			ニューシュ	入手	漢	しか情報を[入手]しようとし	入手しようとしない	0	
511	入手	名詞-普通名詞-サ変可能			ニューシュ	入手	漢	な情報を[入手]できたり、	入手できたり、それ	0	
732	使用	名詞-普通名詞-サ変可能			シヨー	使用	漢	は、そもそも[使用]できない。	使用できない。これ	0	
799	接触	名詞-普通名詞-サ変可能			セッショク	接触	漢	にコンテンツに[接触]するのに	接触するのに対し	0	
893	取得	名詞-普通名詞-サ変可能			シュトク	取得	漢	主体的に[取得]していく	取得していくもの	0	
918	提案	名詞-普通名詞-サ変可能			テーアン	提案	漢	価値感を[提案]して消費	提案して消費者	0	

図 1. 形態素解析にかけ、Excel に出力された画面

3.4.3 品詞の判定

まず、「する」および「する」の各活用形は形態素解析によって、品詞は「名詞―普通名詞―サ変可能」に接続する場合は一つの漢語動詞とする。例：「入力する」「入力すれば」「入力された」「入力できる」は一つの漢語動詞とする。

次に、「伝達はしない」「伝達もしない」のように、「する」は「名詞―普通名詞―サ変可能」に直接に接続しなくても、漢語動詞にする。数量はわずかである。

そして、補助動詞として使用されているもの（「ーて V」（ーている／おく／あげる／もらう／くれる／みる／しまう（ちゃう）／いく／くる）、助動詞（の構成要素）として使用されているもの（ーみたいだ）、接尾辞として使用されているもの（ーかねる／きれない／すぎる／つづける　等）は「動詞-非自立可能」とする。つまり、和語動詞から外す。

最後、「動詞-非自立可能」に分類する動詞は以上の補助動詞、助動詞、接尾辞以外に「する」「いる」「なる」「できる」「ある」の場合は数が多い一方、本動詞か補助動詞か複合助詞の構成要素などを判断しづらい面があり、それは全て「動詞-非自立可能」として、対象から外す。

3.4.4 手作業によるデータの修正・削除

まず、文脈から判断し、「見る」「得る」「挙げる」などを「動詞・非自立可能」から「動詞・一般」に修正する。たとえば、「テレビを見る」の「見る」は「動詞・一般」にし、「食べてみる」の「見る」は「動詞・非自立可能」にする。

次に、「動詞-一般」から削除して、対象外にしたのは「かもしれない」の「知れる」

「である」の「ある」、「～、したがって」の「従う」である。

最後は、複合助詞（の構成要素）として使用されているもの（にとって／において・における／による・によって・によれば・により／について）を削除する。

3.4.5 検索条件

形態素解析をかけて得られたのは品詞が「名詞-普通名詞-サ変可能」であるもので、その中には、名詞として使われている場合もあり、動詞として使われる場合もあるが、今回の研究では、動詞の使用だけ分析する。しかし、形態素解析では名詞と動詞として使われる場合を分類できないので、Excel で漢語動詞の後ろの文字を限定することで、分類が可能となった。第一行目を例として検索条件は以下の通りである。

（４） =IF(AND(G2="名詞-普通名詞-サ変可能",OR(C3="する",C3="し",C3="ら",C3="す",C3="せ",C3="さ",AND(C3="さ",C4="れる"),AND(C3="さ",C4="せる"),AND(C3="さ",C4="れ"),C3="でき",C3="できる",AND(C3="ら",C4="れる"),AND(C3="ら",C4="れ"),C3="すれば",C3="しよう",C3="せよ")),CONCATENATE(C2,C3,C4,C5,C6),0)（第一行目の例）

なお、多くの条件を加え、条件が重なる部分があるが、条件が欠けた場合、問題が起こるが、条件が重なってもデータの抽出に影響がない。筆者の目で確認した限り、誤りがなかった。

この検索条件の原理は、まず、分析対象の品詞を名詞-普通名詞-サ変可能に設定する。そして、「名詞-普通名詞-サ変可能」の品詞である語の次の語を考える。漢語動詞の活用形が「する」の活用形をすべて考え、未然形：「し（-ない、-よう）、せ（-ず）、さ（-せる、-れる）」、連用形：「し」、終止形：「する」、連体形：「する」、仮定形：「すれ」、命令形：「しろ」、「せよ」である。そこから、研究対象語の次の語を以上のように、「する」のすべての活用形を検索条件に入れ、漢語動詞を抽出する。それに、「できる」を加えた。また学習者データの場合、「参加られる？」のような誤用も考えられるので、「ら、られ、られる」なども加えた。表４から分かるように、この検索条件を用いることで、「普及した」「携帯できる」「関連させて」「理解する」が抽出できた。

表 4.　抽出された漢語動詞の例

セル	語彙素	品詞	語種	抽出されたもの
86	普及	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	普及した今日、
87	し	動詞-非自立可能	和	0
88	た	助動詞	和	0
89	今日	名詞-普通名詞-副詞可能	和	0
90	、	補助記号-読点	記号	0
156	携帯	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	携帯できる利便性に
157	できる	動詞-非自立可能	和	0
158	利便	名詞-普通名詞-一般	漢	0
159	性	接尾辞-名詞的-一般	漢	0
160	に	助詞-格助詞	和	0
434	関連	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	関連させて理解
435	為る	動詞-非自立可能	和	0
436	せる	助動詞	和	0
437	て	助詞-接続助詞	和	0
438	理解	名詞-普通名詞-サ変可能	漢	理解することも可能

4.研究結果

ここで、『日本語意見文データ』、『YUN 書き言葉コーパス』の量的分析、質的分析について述べていく。

4.1 意見文データの分析

4.1.1 日本語母語話者と中国・韓国語母語話者の和語動詞と漢語動詞の使用率の差異

表 5 と表 6 は、総語数が形態素解析により、「記号」「空白」「数字」「補助記号」「未知語」を除いたものである。台湾の学生のデータは、台湾語は中国標準語と異なるが、中国語という大きなグループ内の方言と見なされているという理由から、「中国」としてカウントした。表 5 は、「意見文データ」における、総語数、和語動詞の本動詞（動詞-一般)、補助動詞（動詞-非自立可能)、和語動詞（動詞-一般＋動詞-非自立可能)、漢語動詞（名詞-普通名詞-サ変可能)、外来語動詞の延べ語数である。(単位：語)

表 5. 意見文における延べ語数

延べ語数	日本	中国	韓国
総語数	57855	22130	19707
動詞-一般（和語動詞の本動詞）	4251	1724	1647
動詞-非自立可能	2716	993	918
動詞-一般＋動詞-非自立可能	6967	2717	2565
名詞-普通名詞-サ変可能(漢語動詞)	1038	285	135
外来語動詞	51	17	12

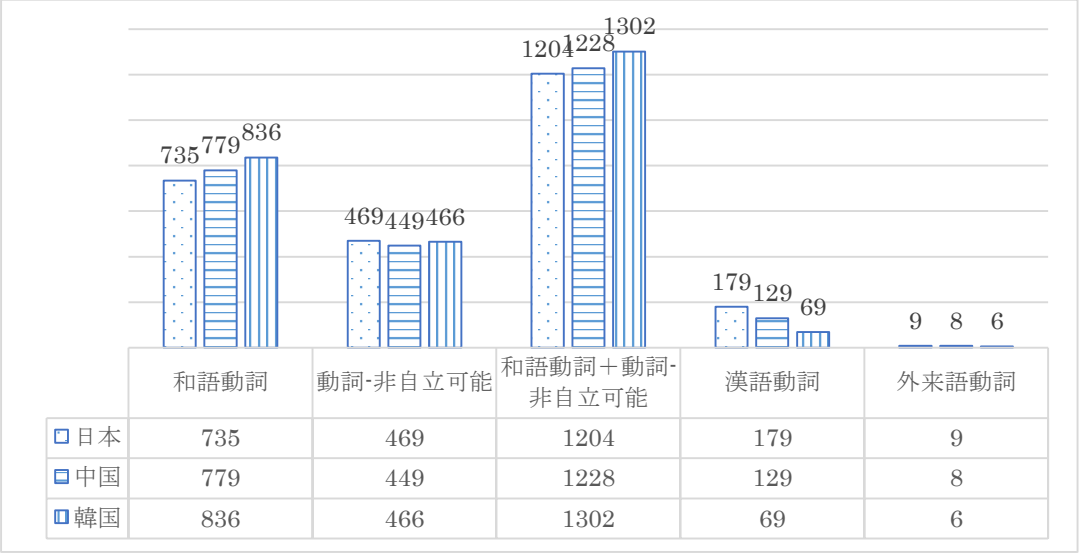
表 6. 意見文における動詞の異なり語数

異なり語数	日本	中国	韓国
総語数	3062	1777	1536
動詞-一般（和語動詞の本動詞）	520	278	256
動詞-非自立可能	30	20	20
動詞-一般＋動詞-非自立可能	531	290	265
名詞-普通名詞-サ変可能(漢語動詞)	330	133	74
外来語動詞	16	6	9

今回延べ語数、異なり語数において外来語動詞の抽出数は少ないため、分析の対象外にする。

4.1.2 日本・中国・韓国の延べ語数及び異なり語数による違い

図 2 はもともとのデータ量が違うため、一万字あたりの動詞の述べ語数を求めたものである。



	和語動詞	動詞-非自立可能	和語動詞＋動詞-非自立可能	漢語動詞	外来語動詞
日本	735	469	1204	179	9
中国	779	449	1228	129	8
韓国	836	466	1302	69	6

図 2. 一万語あたりの動詞の述べ語数

一万語あたりの動詞の延べ語数のデータから見ると、和語動詞の使用頻度は日本(735)＜中国(779)＜韓国(836)であり、その一方、漢語動詞の使用頻度は日本(179)＜中国(129)＜韓国(69)である。動詞-非自立可能の使用頻度の差は小さく、日本(469)＜中国(449)＜韓国(466)であり、同じ傾向が見られる。

本研究は類義関係である和語動詞を漢語動詞に書き換える必要があるか、どのように書き換えるのかが研究目的の一つである。「動詞―非自立可能」は、基本的に漢語動詞に書き換えられないため、本研究の検定は和語動詞、つまり本動詞のみを対象に行う。

以下のカイ二乗検定の結果は Js－STAR によって得られたものである。

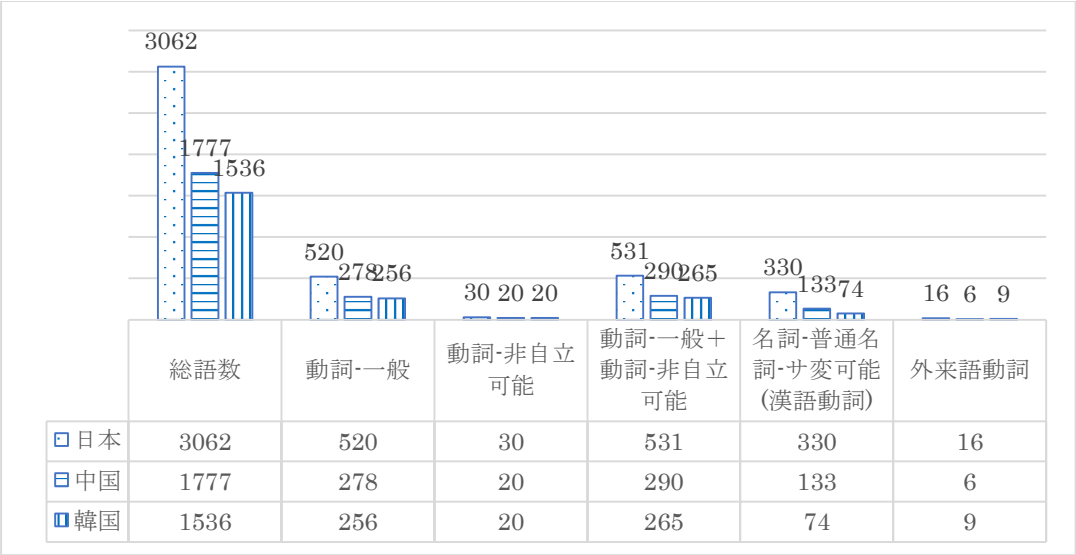
日本語母語話者（和語動詞：4251、漢語動詞：1038）と中国語母語話者（延べ語数和語動詞：1724、漢語動詞：285）の動詞の使用数の延べ語数についてカイ二乗検定の結果、使用数の違いは有意義水準１％で有意だった。($x^2(1)=8.997, p<.01$)。残差分析の結果、中国語母語話者の和語動詞の使用は有意に多く、日本語母語話者の漢語動詞の使用は有意に多かった。

日本語母語話者（和語動詞：4251、漢語動詞：1038）と韓国語母語話者（和語動詞：1647、漢語動詞：135）の動詞の使用数の延べ語数についてカイ二乗検定の結果、使用数の違いは有意義水準１％で有意だった。($x^2(1)=54.229, p<.01$）残差分析の結果、韓国語母語話者の和語動詞の使用は有意に多く、日本語母語話者の漢語動詞の使用は有意に多かった。

今回の意見文データでは、数値を比較した場合、中国・韓国母語話者は日本語母語話

者と比べ、和語動詞の使用が多く、漢語サ変動詞の使用が少ないという傾向が見られた。

以下の図 3 は三ヶ国別の使用された語彙の異なり語数である。



	総語数	動詞-一般	動詞-非自立可能	動詞-一般＋動詞-非自立可能	名詞-普通名詞-サ変可能(漢語動詞)	外来語動詞
日本	3062	520	30	531	330	16
中国	1777	278	20	290	133	6
韓国	1536	256	20	265	74	9

図 3. 意見文データの異なり語数

異なり語数のデータから見ると、和語動詞の産出頻度は韓国（520）＜中国(278)＜日本（256)であり、韓国(330)＜中国(133)＜日本(74)である。「動詞-非自立可能」の産出頻度は、韓国(20)＝中国(20)＜ 日本(30)である。

日本語母語話者（和語動詞：520、漢語動詞：330）と中国語母語話者（延べ語数和語動詞:278、漢語動詞:133）の動詞の使用数の異なり語数についてカイ二乗検定の結果、使用数の違いは有意義水準 5%で有意だった。(x2(1)=4. 707, p<. 05)。残差分析の結果、中国語母語話者の和語動詞の使用は有意に多く、漢語動詞の使用は有意に少なかった。その一方、日本語母語話者の和語動詞の使用は有意に少なく、漢語動詞の使用は有意に多かった。表 7 は、日本語母語話者と中国語母語話者の和語動詞と漢語動詞の異なり語数における実測値と残差分析の結果である。（▲は“有意に多い”、▽は“有意はに少ない”ことを示す、p<. 05)

表 7. 日本・中国の和語動詞と漢語動詞の使用における実測値と残差分析の結果

	和語	漢語
日本	520 ▽	330 ▲
中国	278 ▲	133 ▽

日本語母語話者（和語動詞：520、漢語動詞：330）と韓国語母語話者（和語動詞：256、漢語動詞：74）の動詞の使用数の異なり語数についてカイ二乗検定をした結果、使用数の違いは有意水準１％で有意だった（$x2(1)=27.670, p<.01$）。残差分析をした結果、韓国語母語話者の和語動詞の使用は有意に多く、漢語動詞の使用は有意に少なかった。その一方、日本語母語話者の和語動詞の使用は有意に少なく、漢語動詞の使用は有意に多かった。表 8 は、日本語母語話者と韓国語母語話者の和語動詞と漢語動詞の異なり語数における実測値と残差分析の結果である。

表 8. 日本・韓国の和語動詞と漢語動詞の使用における実測値と残差分析の結果

	和語	漢語
日本	520 ▽	330 ▲
韓国	256 ▲	74 ▽

今回の意見文データの延べ語数において、数値を比較した場合、和語動詞・漢語動詞両方においても、日本語母語話者の使用が多いことが分かった。その中では、表 10 から見ると、和語動詞の使用の差が小さく、漢語動詞の差が顕著であることが明らかになった。

和語動詞と漢語動詞の異なり語数において、日本語母語話者が一番多い理由は母語であり、産出語彙が多いからだと考える。母語の影響によって、漢語の習得が高いレベルである中国語母語話者のデータにおいて、漢語動詞の使用率は日本語母語話者と比べ、顕著な差異も見られる。学習者の漢語動詞の使用が少ない原因は、漢語動詞の習得が少ないなのか、和語動詞を使用する傾向があるためなのかは今の段階では不明であり、さらに研究を進めていきたい。

今回の意見文データは「インターネットが普及する現在、新聞と雑誌が必要かどうか」について収録されたものであり、ある程度やや硬い書き言葉で書く必要があると考える。

その文章において、学習者の漢語動詞の使用が日本語母語話者より少ないことので、学習者がレポートなどのやや硬い文章を書く際に、文章の「硬さ」が足りない、不自然な文章だと思われる原因だと考えている。

4.2 意見文データの質的分析

4.2.1 目的

以上の分析から、学習者が母語話者より漢語動詞の使用が少ないことが明らかになった。そこで、日本語学習者が漢語動詞の使用が母語話者より少ないことを解決するためには、同じ話題について書かれた文章の中では、学習者は母語話者より、具体的にどの漢語動詞の使用が少ないのか、また漢語動詞を使用せず、どのような語彙、文章表現を使用し、同じような意味を表現するのかを分析してみる。

これにより、学習者がどのような和語動詞を含む文章表現を使用しているのかが明らかになり、これを学習者に提案することで、同じような意味を表す際に漢語動詞が使用できるようになり、使用語彙のバリエーションが増え、日本語のレベルアップが計れるようにしたい。

4.2.2 分析手順

まず、母語話者のデータで使用頻度が上位 20 位の漢語動詞を抽出する。その 20 の漢語動詞の使用率に対し、学習者のその対象とする漢語動詞の使用頻度と使用順位を見て、差異があるかどうかを考察する。

次に、母語話者に使用している上位 20 位の漢語動詞は、使用頻度と使用順位の差異がある漢語動詞において、母語話者がその漢語動詞をどの語彙と接続するのかなど、(今の段階でキーワードのみ検索し、抽出した) 使用実態を明らかにする。

そして、学習者のデータでは、同じような意味を表す文の中で、どのような文章表現を使用しているのかを明らかにするために、母語話者が漢語動詞を使用する箇所で、学習者が和語動詞を含む異なり表現を使用している場合、書き換えられる類義表現とする。

最後は、学習者の和語動詞の使用において、使用率が母語話者より、明らかに多い或いは少ない和語動詞を抽出し、その和語動詞の多用の原因を考察し、不適切な使用があれば、その理由を分析する。

4.3 分析結果

4.3.1 和語動詞と漢語動詞の使用実態

以下の表 9 は、母語話者の使用回数が上位 20 位の和語動詞、表 10 は、上位 20 位の漢語動詞を抽出し、対象語とする。「日本順位」は、抽出したすべての和語動詞・漢語動詞において、母語話者にその対象語を何番目に多く使用しているのを示すものである。「日本頻度」は、対象語は何回使用しているのを示すものである。そして、「中国順位」「中国頻度」「韓国順位」「韓国頻度」を表しているのは、母語話者の上位 20 位の語を中国母語話者、韓国母語話者のそれぞれ各自のデータにおいて、何番目に使用しているのか、何回使用しているのかをまとめたものである。なお、空欄は使用数が 0 であることを表す。また、語彙素（ごいそ:Lexeme）とは、言語学における形態論的単位であり、異なる形態であるが同じ語であると考えられるものからなる語の集合をいう。

表 9. 使用回数が上位 20 位の和語動詞

語彙素	日本順位	日本頻度	中国順位	中国頻度	韓国順位	韓国頻度
言う	1	639	1	196	3	135
思う	2	227	2	194	1	179
考える	3	201	7	46	7	39
見る	4	199	4	100	2	174
読む	5	151	3	103	4	134
得る	6	149	29	10	10	32
知る	7	105	9	30	12	26
使う	8	96	5	90	5	80
持つ	9	91	8	44	6	50
上げる	10	56	72	3	65	3
比べる	10	56	11	22	42	6
対する	10	56	13	21	42	6
書く	13	50	16	16	8	36
取る	14	49	13	21	42	6
入れる	15	48	33	8	30	8
入る	16	45	20	15	15	18

無くなる	17	42	16	16	8	36
分かる	18	41	15	17	11	27
掛かる	19	38	54	5	26	10
感ずる	20	32	24	11	16	17

表 10. 使用頻度が上位 20 位の漢語動詞

語彙素	日本順位	日本頻度	中国順位	中国頻度	韓国順位	韓国頻度
普及	1	58	3	10	26	1
利用	2	47	1	12	1	19
存在	3	34	2	11	7	4
入手	4	29	23	2		
発信	5	24				
印刷	6	20	6	9	9	3
提供	7	19	8	8	9	3
発達	8	18	11	5	7	4
配信	9	17				
使用	10	16	9	7	26	1
公開	11	15				
保存	11	15	3	10	2	9
選択	13	14	42	1	13	2
検索	14	12	23	2	4	5
伝達	15	11				
達成	15	11				
解決	17	10	18	3	26	2
信頼	17	10	23	2	13	2
表示	17	10				
購入	17	10				
閲覧	17	10				

4.3.2 表記の説明

母語話者の使用頻度で上位 20 位までの漢語動詞はどのように使われているのかを明らかにするために、学習者と母語話者による使用順位・回数の差異が見られる単語は、まず、国語辞書「新明解」の定義を参考し、学習者は同じような意味を表す際にどのような表現を使っているのかを明らかにする。ネイティブの日本語能力を近づけるために、母語話者の語彙の使用を参考し、学習者に母語話者が多用する漢語動詞を提案する。

使用する記号であるが“〇”は今回のデータでは、母語話者が使用する表現を示し。“◎”は母語話者の使用頻度が高い表現である。“×”は今回のデータで、母語話者に使用されておらず、さらに日本語作文支援システム「なつめ」（以下は「なつめ」と略称）でもその使用が見られない表現である。“△”は今回のデータの中では、その表現を見られないが、「なつめ」では特定のジャンルのみで使われ、あるいは使用頻度は極めて少ない表現である。「なめつ」で特定のジャンルのみ、対象語は多く出現する場合“＜＞”にそのジャンルを明記する、たとえば＜新聞＞という標記は、新聞でそのようなコロケーションが見られたことを表す。

また、学習者の例文を抽出する際に、間違えているところを直さずに引用した。

以上はこれからの使用差異が見られる語を分析する際に、使用する記号の意味について予め説明した。

4.3.3 使用回数の差異が見られる漢語動詞の分析

まず.母語話者はよく使用するが、学習者に使用されていない漢語動詞について見ていく。

4.3.3.1「発信」・「配信」

その二つの語の共通点は「情報」とともに使われることが多く、意味も近いため、まとめて分析する。

母語話者のデータにおいて、「発信」の使用順位は 5 位であり、24 回使用された。「配信」の使用順位は 9 位であり、17 回使用された。

『新明解』では、「発信」は「何らかの情報を外部に送りだす」と説明されている。「配信」は「Ⅰ通信社・新聞社・放送局などが、報道材料を関係機関に提供すること。Ⅱインターネットで、音楽・映画などを公衆に提供すること」と説明している。

①母語話者の使用例：

（5） これらのサイトにある情報が誤謬だとしても、その責任が自分にあると自覚して情報を発信する者は多いのかどうか。 【jp019】

（6） また､得たニュースに対する自分自身の意見や考えを即座に発信することもできる。 【jp031】

（7） インターネットニュースは、誰でも配信することが可能であるから、多くの情報が配信されることになり､かえって上記の目的を達成し易くなるのではないかとも思える。 【jp003】

（8） 現在､インターネットが普及して､世界中の出来事や事件がすぐに配信される。 【jp051】

「情報/ニュース/意見/考えを発信する」のような例が多い、特に今回の文章の中で「情報を発信する」の使用が多い。また「情報発信できる」「誰/どこに発信する」の使用も見られた。「配信する」は「発信する」と類似し、「情報/ニュース/動画/漫画/データが配信」などの表現といっしょに現れた。

②学習者の言い換えた例：

（9） インターネットは誰でも使えることで、新*聞と雑誌とより、情報を書きやすくて情報を流す責任をとる人もない。(中) ◎ 【TM006】

（１０） 新*聞と雑誌に不正で偽装な情報をのせることもあるとしたって、その情報を広布した人が責任を取るはずで､インターネットより信じられるところがちょっとあるだろう。(中) × 【TM006】

（１１） もう一つは、インターネットにはニュースの出るの速さだけ重視され、記事の完整性や正しいかどうか、多くの場合に大事にしていない。(中) ○ 【TM034】

（１２） テレビやラジオは新聞や雑誌を変わ取ることができない原因は、違う媒介で情報を流通することだ。(中) △ 【TM043】

（１３） インターネットの場合、その速度がものすごくはやく、パソコンやけいたいを持っている人はすべてがせんざい的に情報をネット上に流せる能力を持っている。◎ 【KR030】

（１４） 情報をアップする人と､アップされた記じを見る人がどれだけはなれていても、クリック一回で情報を確にんすることが出来る。× 【KR033】

（１５） 一日中ものすごくな情報ができるからです。(配信される？)× 【KR015】

（１６） ネットが情報をせいかくに伝えられるように安定するまでは､まだまだ雑誌や

新聞にたよるしかなさそうた。○ 【KR036】

③考察

学習者の言い換え文の中で、母語話者もかなり使われる表現「情報/ニュースを流す」、「情報/ニュースを伝える」である。使用頻度が少ない表現「情報/ニュースが出る」と「情報/ニュースが伝えられる」である。今回のデータでは使用が見られないが、「なつめ」で見られる表現は「情報を流通する」＜書籍・白書・Wikipedia＞である。今回のデータで見られず、また、「なつめ」でもそのようなコロケーションが見られないのは「情報をアップする」「情報ができる」である。

今回の学習者のデータでは「発信する」と「配信する」の使用は見られず、母語話者は「情報を発信する」をかなり使用していることがわかった。「情報を伝える」の和語動詞の使用は母語話者と学習者のデータでもよく見られる。学習者は「情報を広布する」「情報をアップする」「情報ができる」その三つの表現が見られたが、「なつめ」で調べた結果、日本語には存在していない表現である。そのような表現は日本語に存在していないが、学習者が表したい意味が理解できるだろう。文章の意味が通じるから、学習者は自分が間違えていることが気づきにくくなり、何度も同じように間違いを犯す可能性があると考える。それに、そのような間違いを起こしたのは、学習者は母語語などの語彙知識を日本語に当てはまって、新たな語彙やコロケーションを作っているのではないかと考える。たとえば、「情報を広布する」という語彙は日本語に存在していないが、中国語の漢字の知識を運用し、「情報を広く分布するように」の意味を持ち、作り上げたのではないかと考える。

4.3.3.2「公開」

「公開」の使用順位は 11 位であり、15 回使用された。

『新明解』では、「公開」は「一般の人が自由に入場・観覧・使用などが出来るようにすること」と説明されている。

①母語話者の使用例：

「無料で公開されている」「情報は誰が公開した」「公開している情報」「記事/情報を公開する」「ネット上に公開される」「一般に公開される」などの使用例が見られた。

②学習者の言い換えた例：

（１７）インターネットを利用して、いろんな新聞や面白い雑誌を無料で見ることができます。◎ 【TM016】

（１８）情報はテレビやインターネットで広がることになっている。◎ 【TM030】

（１９）そういう情報はインターネットものっていますが、一冊に集めて本みたいな情報誌はその魅力であります。◎ 【TM031】

（２０）昔、情報は新聞や雑誌で伝わられた。× 【TM043】

（２１）私も時々朝に見れなかった記事やニュースをインターネットで見ます。◎ 【KR012】

（２２）しかし、インターネットのニュースはその記事を載せたサイトでまとめられた記事であるので、◎ 【KR012】

③考察

学習者の言い換え文の中で、母語話者もかなり使われる表現「ニュースを見る」、「～が広がる」、「インターネットの情報/ニュース」「新聞・ニュース・情報・記事が載る」。今回のデータで見られず、また、「なつめ」でもそのようなコロケーションが見られないのは「情報は/が伝わる」である。

母語話者のデータから見ると、「～が公開される」9 例、「～が公開している」3 例、「～を公開できる」2 例、「～を公開した」1 例があった。「公開される」のような受動文は 9 例で、それ以外の文は能動文であり、合わせて 7 例である。ここからは、「公開する」は受動文に出現数がやや多いことが分かっている。

学習者は「情報を見る」「情報が/は広がる」「情報が載っている」などの動詞を含む能動文を使用する傾向があり、また、この場合、受動文を避け、習得しやすい「の」多用が見られる。たとえば、「インターネットの情報/ニュース」などである。

4.3.3.3「伝達」

「伝達」の使用順位は 11 位であり、15 回使用された。漢語動詞としての「伝達」は学習者に使用されていないが、韓国母語話者のデータでは名詞としての「伝達」は 3 回出現した。

『新明解』では、「伝達」は「命令・指示・連絡事項などを他に伝えること」と説明されている。

①母語話者の例：

（２３）近年、急速に登場し、誰もが簡単に情報を伝達することができてしまうインターネットが、このような信頼性を獲得するのは難しいでしょう。 【jp097】

母語話者のデータでは「情報を伝達する」「情報が伝達される」が使われ、また、一番多く見られるのは複合名詞「情報伝達」である。つまり、「伝達」は「情報」とともに

使われるケースが多い。

②学習者の使用例：

（２４）過去に、テレビが登場したからといって新聞がなくなった前例もないし、明らかに異なる性格の伝達手段だと考えているからだ。【KR034】

（２５）インターネットや PDA のようなきかいがすべての情報でんたつのところをたんとうするかもしらない。でもまたはじゅうぶんではない。【KR053】

（２６）今までの大衆メディアは一方的に伝達の役割りをしてきた。【KR046】

③学習者の言い換えた例：

（２７）それに前から人々が紙でインフォメーションを伝える習慣も変りにくいからです。○【TM018】

（２８）情報を伝えるの意義もなくなってしまうだろう。◎【TM041】

（２９）ネットが情報をせいかくに伝えられるように安定するまでは、まだまだ雑誌や新聞にたよるしかなさそうた。◎【KR036】

④考察

学習者は「伝達する」を使用していない一方、学習者の使用率が一番高い「伝達する」の類義関係である和語動詞は「伝える」である。その使用順位と頻度を見てみると、中国母語話者(24 位-11 回)、韓国母語話者(19 位-13 回)、多く使用されていることが分かった。そこから、学習者は「伝達する」という語を使用するより、「伝える」をよく使用することが分かった。しかし、「伝える」(22 位-27 回) も母語話者のデータではよく出現する語彙であり、母語話者のデータでは「ニュースを伝える」「情報を伝達する」とコロケーションになる傾向が見られる。「伝達する」は学習したことがないわけではなく、韓国語母語話者のデータでは名詞としての「伝達」は 3 回見られたが、動詞としての「伝達する」は見られなかった。

4.3.3.4「達成」

「達成」の使用順位は 15 位であり、11 回使用された。

『新明解』では、「達成」は「目的の物事を完全になしとげること目的の物事を完全になしとげること」と説明されている。

考察：母語話者の使用頻度は 11 回の中で、10 回は「目的は/が/を達成できる」という用法である。

しかし、「達成する」の 11 回出現した中で 9 回は【jp003】という学習者で使用されたことが分かった。このことから、この語彙はすべての母語話者によく使用される語彙

と言えなく、母語話者の使用する語彙の個人差が見られた。

学習者のデータの内容で、何らかの目的を達成することについて述べていないから、「達成する」を使われていない理由だと考える。

4.3.3.5「購入」・「閲覧」

「購入する」と「閲覧する」は同じく使用順位は 17 位であり、10 回使用された。

母語話者のデータでは、「新聞/雑誌を購入する」というコロケーションが見られるが、学習者は「新聞/雑誌を買う」をよく使用する。母語話者も「新聞/雑誌を買う」を 16 回使用した。

母語話者のデータでは、「情報/ニュース/記事/情報/インターネット/ウェブサイトを閲覧する」というコロケーションを見られるが、学習者のデータでは同じような場合は「見る」「読む」を使用する。母語話者も「見る」61 回、「読む」151 回をかなり使用し、「購入する」10 回の使用より、圧倒的に多いである。

ここからは、「購入する」「閲覧する」はが学習者の使用が見られないが、その二つの語の類義関係である「買う」、「見る」と「読む」は母語話者にもかなり使用されて、このような場合、和語動詞を漢語動詞に書き換えなくてもいいと判断する。そのため、すべての和語動詞を漢語動詞に書き換える必要があるとは言えないことが明らかになった。

次に、学習者の使用が少ない漢語動詞についてみていく。

4.3.3.6「普及」

「普及」の母語話者の使用順位は 1 位であり、58 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「普及」の使用順位は 3 位であり、10 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「普及」の使用順位は 21 位であり、1 回のみ使用された。中国語母語話者と韓国語母語話者はその語の使用が少ない。

『新明解』では、「普及」は「それに関する知識が行き渡ったり、その物の使用が一般に広まったりすること」と説明されている。

①母語話者の使用例：

（３０）インターネットが世間に広く普及したとはいえ、公共の場での使用はファーストフード店やカフェなど限られています。 【jp004】

（３１）現在インターネットは世界中に広く普及している。 【jp012】

母語話者の「普及」の使用をみると、「a インターネット/テレビ/コンピューター/パ

ソコン/携帯が普及」「ｂ～に広く普及」というような　このようなパターンの使用が多いことが分かった。

②学習者の使用例：

（３２）インターネットが普及したおかげで、ニュースや新しい報道・知識などを取る方は本にかぎらなくなった。【TM012】

（３３）90 年代から、インターネットはあっという間に普及になってきた。【TM015】

（３４）もうこの世にはインターネットが普及し過きてこれからは紙*など必要ないかと思われるくらいだ。【KR048】

（３５）二つ目は､インターネットのフキュウの問題である。【KR021】

③学習者の言い換えた例：

（３６）この数十年の間に、テレビや携*帯電話などの便利なものは世界的に使われていて､私たち現代人の生活に大きな役に立っているのだ｡○【TM001】

（３７）科学が勢いで発展するとともに､インターネットが広く使われるようになった。○【TM056】

（３８）現在､インターネットは世界中に広がっている｡◎【KR008】

（３９）インターネットが世界中で使えるようになってから人々の生活にもまた大きいな変化がおこるようになりました｡◎【KR041】

④考察

母語話者のデータでは､「使える」や「広がる」などの和語動詞を使用し､「普及する」の意味を表す文も見られた。母語話者のデータでは、「使える」や「広がる」もよく使用していることも明らかになった。しかし、「普及する」は今回のデータでは、母語話者が最も多く使う漢語動詞であり､学習者のこの語の使用はやや不足していると考える。そのため、学習者に「世界的広く使われ、その使用が広がっている」のような意味を表したい場合、「普及する」という語を提案したい。

それに、②に出現した「普及になってきた」の「普及になる」は日本語作文支援システム「なつめ」により、「普及 ＊ なる」のジャンル別頻度 0 であり、誤用だと考える。「普及になる」は中国語母語話者 3 人 (TM005,TM015,TM030) に間違えって使っていて、間違いやすいか、難易度が高い語彙だと言えるだろう。

4.3.3.7「入手」

「入手」は母語話の使用順位は 4 位であり、29 回使用された。中国語母語者のデータ

において、「入手」の使用順位は 23 位であり、2 回使用した。韓国語母語話者には使用されていない。

『新明解』では、「入手」は「価値の有る物を、自分の物にすること」と説明されている。

①母語話者の使用例：

（４０）インターネットの場合、自分の興味のある項目についてしか情報を入手しようとしない。【jp001】

（４１）インターネット上で、大手新聞社の記事が閲覧できるし、音楽情報、グルメ、ショッピング、ファッション等、雑誌に取り上げられる話題も入手できる。【jp033】

母語話者はよく「情報を入手」を使用する。また、「手軽に/すばやく/素早く/簡単に＋入手」のように形容詞や形容動詞を加える場合が多い。

②学習者の使用例：

（４２）情報を収集してからやっと印刷し出版した新聞と雑誌とは違って、効率的に情報*を入手することになっている。【TM030】

（４３）今、インターネットがよく発展されていて、ニュースも資料も早く入手することができますので、もう新聞や雑誌はいらないと思っています。【TM045】

③言い換えた例：

（４４）すぐ世界中の情報を知っているし、とても便利です。○【TM002】

（４５）雑誌がいなたら、人も情報を直接手に入る親近感も消す。◎【TM010】

（４６）新聞や雑誌から情報を得ることにしている。◎【TM030】

（４７）誰もインターネットによって簡単に世界のニュースや情報をもらえる。△【TM037】

（４８）たくさんの情報をうけ、その中で正確で、自分にとって役に立つのを見つけるのが一番正しい考え方だと思います。△【TM037】

（４９）好きや嫌いな情報を取ることがやすくなってくる。△＜新聞＞【TM043】

（５０）何らかの情報を得ようとしたら新聞や雑誌を使うしかなかった。◎【KR043】

（５１）今、世界の大い人だちがインターネットを使かってニュースや情報をうけてい

る。△ 【KR053】

（５２）ある情報を自分のものにするのに、インターネットでは無理があると思う。×
【KR020】

（５３）インターネットですべての情報を手にすることができる。○ 【KR030】

（５４）インターネットの新聞の長所はまず、新しい情報を速く手に入れることが出来るところだ。◎ 【KR033】

④考察

学習者の言い換え文の中で、母語話者もかなり使われる表現「情報を得る」、「情報を手に入れる/入る/する」。使用されているが、使用回数が少ない表現「情報を知る」「情報を手にする」である。今回のデータでは使用が見られないが、「なつめ」で見られる表現「情報を受ける」＜書籍・白書・Wikipedia＞、「情報を取る」＜新聞＞、「情報をもらう」＜書籍・Yahoo!ブログ新聞＞。今回のデータで見られず、また、「なつめ」でもそのようなコロケーションが見られないのは「情報を自分のものにする」である。

母語話者に使用されていない「情報を自分のものにする」表現や「情報を受ける」「情報をもらえる」というあまり使用されない表現が見られる。そのような文は、読み手は書き手の表したい意味を理解できるが、違和感があるだろう。学習者は「情報を入手する」という意味を伝えたいが、適切な表現を思い出せず、いつも使っている和語動詞を自分なりに解釈し、使ったのではないかと考える。それに、和語動詞において「情報を得る」「情報を手に入れる/入る/する」など、和語動詞を含む表現、母語話者と学習者もよく使うことが分かった。そこから、和語動詞はかならず、漢語動詞に変更するわけではなく、語のバリエーションや語彙細かいニュアンスを考慮し、和語動詞と漢語動詞を併用するほうがいいではないかと考える。

4.3.3.8「使用」

「使用する」に使用頻度を見てみると、母語話者と学習者の使用が少し見られるが、韓国母語話者は「使用する」を 1 回のみ使用した。「使用する」のもっとも常用の類義関係である和語動詞は「使う」であり、母語話者と学習者は「使う」をかなり使っている。三ヶ国の「使用する」と「使う」の使用頻度を比べてみる。

以下の数字は延べ語数である（中国総語数は日本の 2/5 ぐらい、韓国の総語数は 3/1 ぐらいである）「使う」の使用順位と使用数は同じぐらいであっても、総語数の差を考慮すると、学習者は「使用する」より「使う」を使用する傾向があるといえる。

表 11.「使う・使用する」の使用状況

語彙	日本		中国		韓国	
	使用回数	使用順位	使用回数	使用順位	使用回数	使用順位
使う	96	8	90	5	80	5
使用する	16	16	7	9	1	26

韓国母語話者のデータでは、「使用者」、「インターネットの使用」、「使用時間」、「使用率」、「使用量」、「使用済」など名詞としての「使用」がかなり見られている。ここからは、「使用」という語彙の習得は十分だと思う。しかし、漢語動詞としての「使用する」の使用頻度が少ない。そのため、韓国語母語話者は類義関係にある「使用する」と「使う」では、「使う」を使う傾向が強いと考える。

4.3.3.9「信頼」

「信頼」の母語話者の使用順位は 17 位であり、10 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「信頼」の使用順位は 23 位であり、2 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「普及」の使用順位は 13 位であり、2 回のみ使用された。中国語母語話者と韓国語母語話者その語の使用が少ない。

『新明解』では、「信頼」は「その人やものが、疑う余地なく、いざという時に頼ることができると信じて、全面的に依存しようとする気持ちを抱くこと。」と説明されている。

①母語話者の使用例：

（５５） しかし、新聞や雑誌の記事なら信頼できて、ネット記事は信頼できないのでしょうか。 【jp036】

（５６） 新聞の場合、長年に渡って保存される可能性もあり、その文調や漢字の使用に関しては信頼できるだろう。 【jp024】

②学習者の使用例：

（５７） そういうわけで、読者にとって、新*聞や雑誌の情報はインターネットより信頼できると思っている。 【TM032】

（５８） 情報がしんらいできない時がある。 【KR036】

③考察

信頼と学習者の使用頻度が最も高い類義関係である和語動詞は「信ずる（信じる）」

である。以下の数字は述べ語数である（中国総合数は日本の 2/5 ぐらい、韓国の総合数は 3/1 ぐらいである）

表 12.「信ずる（信じる）・信頼する」の使用状況

語彙	日本		中国		韓国	
	使用回数	使用順位	使用回数	使用順位	使用回数	使用順位
信ずる（信じる）	2	218	8	33	10	26
信頼	10	17	2	23	2	13

そこから、母語話者は類義関係である「信頼する」と「信ずる（信じる)」の中で、「信ずる（信じる)」を使う傾向が強いであり、その反対で、学習者は「信ずる（信じる)」の使用傾向が強いと考える。

4.3.4 使用回数の差異が見られる和語動詞の分析

4.3.4.1「得る」

「得る」の母語話者の使用順位は 6 位であり、149 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「得る」の使用順位は 29 位であり、10 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「得る」の使用順位は 10 位であり、32 回のみ使用された。中国語母語話者はその語の使用が少ない。

①母語話者の使用例：

（５９） 自分の知りたい情報を選択して見ることができる利便性､そして世界中のどこからでも同じ情報を得られるという特徴は、新聞や雑誌とは異なります。【jp009】

（６０） そして、情報が得られないがために、立場がどんどん弱くなってしまい、拡差が広がっていくという状況になる場合だってあります。【jp011】

このように、母語話者は「得る」を使うのは、ほぼ「情報を得る」というコロケーションを 83 回使用した。しかし、学習者のデータでの「情報を得る」というコロケーションの使用頻度は中国が 2 回、韓国 6 回である。

②学習者の「情報を得る」の使用例：

（６１） そのため、常に通勤*や通学の途中に短い時間を利用して新聞や雑誌から情報

を得ることにしている。【TM030】

（６２）現在、インターネットは世界中に広がっている。インターネットを使うと、情報を得ることが用易になる。【KR008】

③言い換えた例：

（６３）インターネットで、いろいろな情報が取れるようになった。【TM036】

（６４）誰もインターネットによって簡単に世界のニュースや情報をもらえるということを反映していると思います。【TM037】

（６５）情報を見られるのが本当の新聞や雑誌のみりょくではないかと思います。【KR015】

（６６）でも今のように変化が速い時に、新しい情報をはやくせっするインターネットも大事なことだと思う。【KR026】

今回のデータでは、中国語母語話者は「情報を得る」のかわりに、同じ意味を表す際に「情報を取る」(5回)、「情報をもらう」(3回)、「情報を手に入れる/入る」(2回）を使用した。「情報を取る」と「情報をもらう」は今回の母語話者のデータの中に見られないが、「なつめ」では「情報を取る」＜書籍・国会会議録・新聞＞と「情報をもらう」＜書籍・Yahoo!ブログ＞がわずかの使用が見られた。

今回のデータでは、韓国語母語話者が使用している「情報を見る」は母語話者が使用しているが、使用数が少ない。「情報を手に入れる/入る/する」（７回）があった。それに、「情報を接する」とういコロケーションは今回の韓国語母語話者に6回使用された。「情報を接する」において、助詞は「を」を使用しているのは誤用である。しかし、その誤用は【KR020】【KR034】【KR036】【KR055】四人の学習者のデータから見られた。今回の母語話者のデータでは、「情報に接する」というコロケーションが見られないが、「なつめ」より、＜科学技術論文・書籍・国会会議録＞のジャンルでわずかの使用が見られた。しかし、学習者が使用している「情報を接する」はすべて(67)(68)のように「情報を得る」と同じ意味を表している。

（６７）速く情報をせっすることよりものごとをじっくり見、自分の意見で考えができる情報がせっすることができる新聞の方もないがしろにしてはいけないのではないと思う。【KR004】

（６８）インターネットであらゆる情報に接っすることは、たしかにできる。【KR020】

今回のデータで、母語話者は「情報を得る」を多く使われた。その代わりに、中国母

語話者は、「情報を取る」「情報をもらう」「情報を手に入れる/入る」を使用し、韓国語母語話者は「情報を接する「情報を手に入れる/入る/する」を使う傾向があることが明らかになった。ここからは、学習者の言い換える文では、母語の影響を受けて、使う表現もことなることが分かった。

4.3.4.2「上げる」

「上げる」の母語話者の使用順位は 10 位であり、56 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「上がる」の使用順位は 72 位であり、3 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「上がる」の使用順位は 65 位であり、3 回のみ使用された。中国語母語話者と韓国語母語話者その語の使用が少ない。

①母語話者の使用例：

（６９）以下に新聞や雑誌のメリットを挙げていきます。【jp007】

（７０）先ほど挙げた保存という観点からも同様である。【jp013】

（７１）私は毎朝通学の電車の中で新聞を読んでいますので、そのことを例に挙げたいと思います。【jp015】

②考察

母語話者のデータでは、「こと」「点」「例」「理由」などをこれから説明していく際、あるいは説明したことを及ぶ際に使用する。しかし、学習者のデータの中で、これから、～について説明していくという情報を読み手に与えず、直接に「こと」「点」「理由」を述べていく。その理由で学習者は「上げる」の使用が少ない。それは、日本語能力や和語動詞漢語動詞の使用傾向に関係なく、物事を述べる際の習慣や癖だと考える。

4.3.4.3「比べる」

「比べる」の母語話者の使用順位は 10 位であり、56 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「比べる」の使用順位は 11 位であり、22 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「比べる」の使用順位は 42 位であり、6 回のみ使用された。中国語母語話者と韓国語母語話者その語の使用が少ない。

①母語話者の使用例

（７２）識字率の低い途上国においては、新聞など紙媒体の運用能力も先進国に比べて低い。【jp013】

（７３）確かに、インターネットニュースは新聞や雑誌に比べて更新がはるかに速く、最短で情報を得ることが可能である。【jp016】

「N に比べて」「V のに比べて」の使用に 56 例が見られた。

②考察

学習者の例を見ると、“二つ以上のこと比較し、その差異を述べる”際に、中国母語和話者は「N に比べて」22 例、「N/V より」55 例である。韓国母語話者は「N に比べて」6 例、「N/V より」は 70 である。ここから、学習者は「N に比べて」より、「N/V より」のほうは使用傾向があり、和語動詞の「比べる」の使用が少ない理由になっている。ここは、「N に比べて」と「N/V より」はどっちらを使用すべきなのを明らかにするのではなく、学習者と母語話者の使用傾向に差異があることが明らかになった。

4.4『YNU 書き言葉コーパス』における 12 タスクの分析

ここでは、まず、『YNU 書き言葉コーパス』の書くタスクについて簡単に紹介する。次は、日本語母語話者、中国、韓国学習者が作成した各タスクの総語数、和語動詞漢語動詞の延べ語数と異なり語数を比較する。また、その結果に基づき、和語動詞と漢語動詞の使用と文章の内容の関係を分析する。最後は、母語話者と学習者の使用差異が見られる和語動詞と漢語動詞の使用状況を分析する。

4.4.1「YNU 書き言葉コーパス」の各タスクについて

各タスクの内容、体裁・文体、読み手について「YNU 書き言葉コーパス」から抽出し、以下の通りである。

表.13 書くタスクの紹介

タスク	内容	体裁・文体	特徴
1	面識のない先生に図書を借りる	メールの依頼文	目上
2	友人に図書を借りる	メールの依頼文	特定の親しい友人
3	デジカメの販売台数に関するグラフを説明する	レポートの一部であるグラフの説明	不特定のレポート（論文）の読者に向けた書き方
4	学長に奨学金増額の必要性を訴える	要望を伝えるメール文	特定の目上で面識のない人
5	入院中の後輩に励ましの手紙を書く	励ましの手紙	特定に親しい友人に対し、親しみが感じられる表現・言葉遣い
6	市民病院の閉鎖について投書する	投書文	不特定の読者に向けた書き方
7	ゼミの先生に観光スポット・名物を紹介する	返信のメール文	特定の目上の人に対する言葉遣い
8	先輩に起こった出来事を友人に教える	ケータイの返信メール文	特定の親しい友人に対し、親しみが感じられる表現・言葉遣い
9	広報紙で国の料理を紹介する	広報紙	不特定の読者に向けた表現
10	先生に早期英語教育について意見を述べる	返信のメール文	特定の目上の人に対する言葉遣い
11	友人に早期英語教育について意見を述べる	返信のメール文	特定の親しい友人に対し、親しみが感じられる表現・言葉遣い
12	小学生新聞で七夕の物語を紹介する	小学生新聞での紹介文	不特定の小学生新聞の読者に対し、この話を知らない人に分かるように記述される

4.4.2 各タスクにおける日本語母語話者と学習者の和語動詞と漢語動詞の使用数

以下の表 14 と表 15 のデータは、意見文データの抽出と同じ方法で抽出されたものである。

表 14.『YUN 書き言葉コーパス』における動詞の延べ語数

タスク	日本			中国			韓国		
	総語数	和語	漢語	総合数	和語	漢語	総語数	和語	漢語
1	3738	284	34	3757	305	15	4102	340	21
2	1932	178	2	2668	244	7	2800	252	7
3	2714	146	55	2732	153	49	3287	184	64
4	5465	360	67	7219	415	142	6525	404	78
5	9045	630	133	9106	725	150	8485	672	123
6	6653	396	122	6771	377	127	6696	437	88
7	5238	383	37	6500	404	60	6142	429	40
8	2308	202	11	2580	253	13	2520	254	15
9	6547	663	41	9515	963	76	7317	665	78
10	4937	349	45	5730	363	87	5331	358	78
11	4149	289	33	4448	293	52	4285	319	53
12	12881	1097	37	12101	1079	98	10726	959	91
合計	65607	4977	617	73127	5574	876	68216	5273	736
使用率		7.6%	0.9%		7.6%	1.2%		7.7%	1.1%

表 14 から見ると、書くタスクのテーマは同じであっても、文章の総語数の差異が見られる。総語数は中国が最も多く（73127)、その次が韓国（68216)、日本（65607）である。和語動詞の使用率において、和語動詞の使用率順は韓国が最も多く（7.8%)、その次が日本(7.6%)、中国(7.6%)である。漢語動詞の使用率順は中国が最も多く(1.2%)、その次が韓国（1.1%)、日本（0.9%）である。三ヶ国の和語動詞の総語数と漢語動詞総語数の使用率は差異が少ないことが明らかになった。

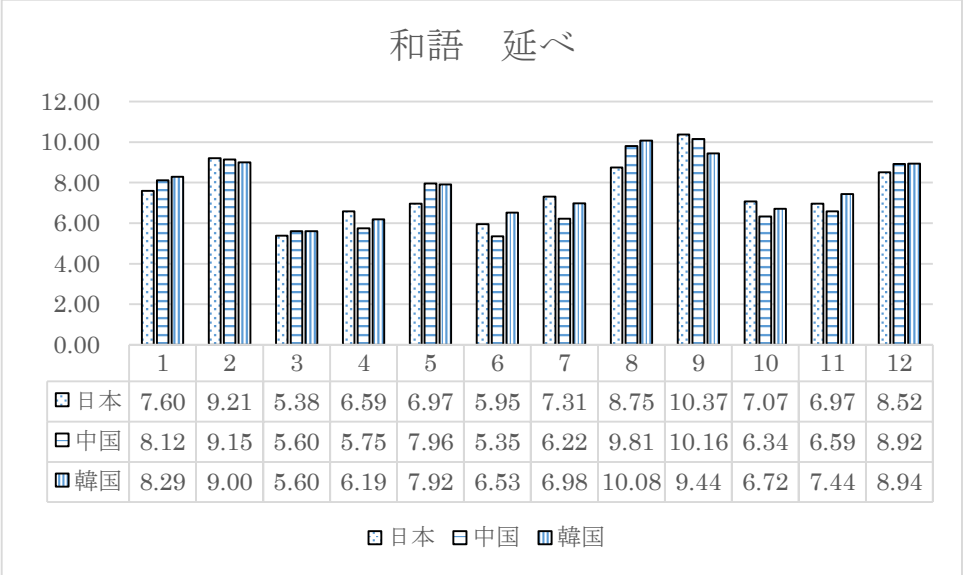
表 15.『YUN 書き言葉コーパス』における動詞の異なり語数

タスク	日本		中国		韓国	
	和語	漢語	和語	漢語	和語	漢語
1	41	16	55	10	56	13
2	31	2	49	4	47	5
3	63	23	45	18	63	28
4	107	37	121	41	124	47
5	170	51	191	65	164	42
6	137	38	126	62	131	46
7	109	26	103	32	109	26
8	46	6	61	9	65	6
9	169	15	207	22	143	22
10	107	30	101	34	88	27
11	76	18	88	16	76	23
12	192	14	212	39	164	34
合計	1248	276	1359	352	1230	319

表 15 の動詞の異なり語数のデータを見ると、和語動詞の合計使用数は中国が最も多く（1359)、その次が日本（1248)、韓国（1230）である。漢語動詞の使用は中国が最も多く（352)、その次が韓国（319)、日本（276）である。和語と漢語動詞合計の使用数は中国が最も多く（1711)、その次が韓国（1549)、日本（1524）である。

4.4.3 日本・中国・韓国の延べ語数及び異なり語数による違い

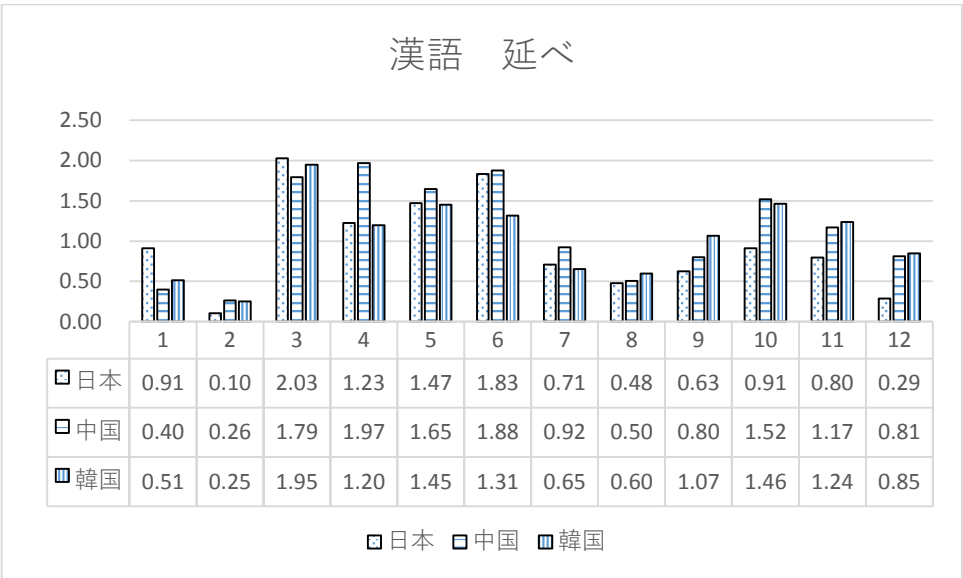
以下の図 4～図 7 のデータの抽出方法は意見文データの抽出方法と同じである。12 タスクの総語数が違うため、以下の表 17 と表 18 はそれぞれのタスクの中で、100 語あたりの和語動詞と漢語動詞の延べ語数の縦棒グラフである。表 19 と表 20 はタスク別の和語動詞と漢語動詞の異なり語数の縦棒グラフである。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本	7.60	9.21	5.38	6.59	6.97	5.95	7.31	8.75	10.37	7.07	6.97	8.52
中国	8.12	9.15	5.60	5.75	7.96	5.35	6.22	9.81	10.16	6.34	6.59	8.92
韓国	8.29	9.00	5.60	6.19	7.92	6.53	6.98	10.08	9.44	6.72	7.44	8.94

図 4．タスク別の 100 語あたりの和語動詞の延べ語数

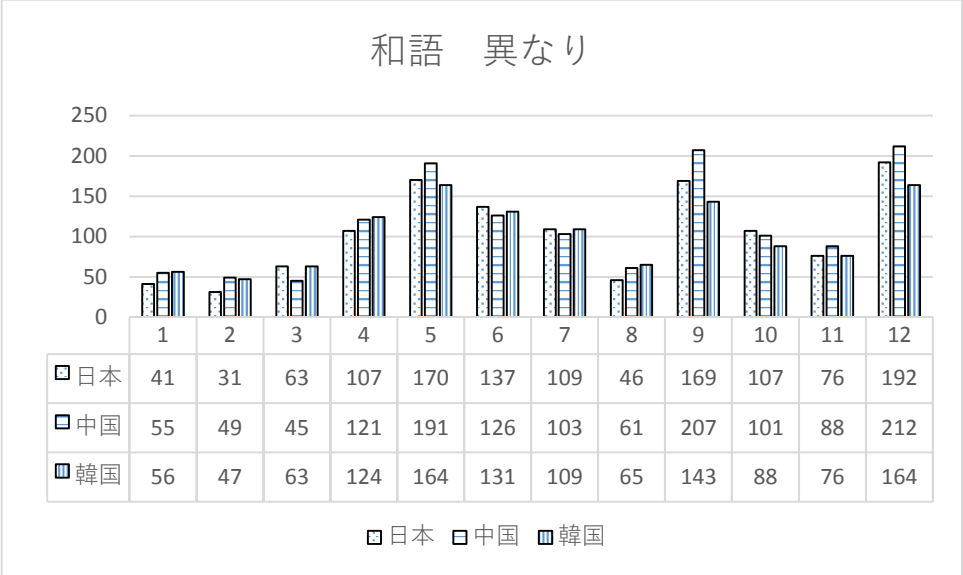
図 4 を見ると、各タスクの和語動詞の使用頻度の差異が少ないことが分かる。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本	0.91	0.10	2.03	1.23	1.47	1.83	0.71	0.48	0.63	0.91	0.80	0.29
中国	0.40	0.26	1.79	1.97	1.65	1.88	0.92	0.50	0.80	1.52	1.17	0.81
韓国	0.51	0.25	1.95	1.20	1.45	1.31	0.65	0.60	1.07	1.46	1.24	0.85

図 5．タスク別の 100 語あたりの漢語動詞の異なり語数

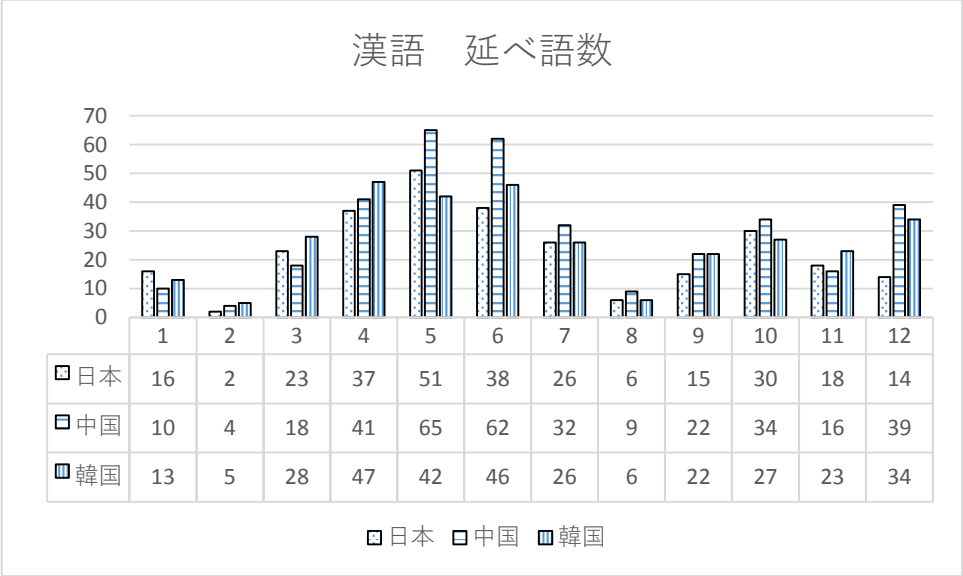
図 5 を見ると、総体的には、各タスクの漢語動詞の使用頻度は和語動詞の使用頻度の差異より、やや顕著であると見える。タスク 1 「本（上)」は母語話者の漢語の使用が多いである。タスク 4「増額（上)」は中国母語話者の漢語使用が多いである。また、タスク 2 とタスク 8～タスク 12 において、学習者の漢語動詞の使用が母語話者より多いことが分かった。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本	41	31	63	107	170	137	109	46	169	107	76	192
中国	55	49	45	121	191	126	103	61	207	101	88	212
韓国	56	47	63	124	164	131	109	65	143	88	76	164

図 6.タスク別の和語動詞の異なり語数

図 6 から、和語の異なり語数において、和語の延べ語数より、使用される語の数の差異がやや顕著である。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日本	16	2	23	37	51	38	26	6	15	30	18	14
中国	10	4	18	41	65	62	32	9	22	34	16	39
韓国	13	5	28	47	42	46	26	6	22	27	23	34

図 7.タスク別の和語動詞の異なり語数

図 7 を見ると、総体的見ると、各タスクの漢語動詞の異なり語数は漢語動詞の延べ語数と同じように、やや顕著であると見える。タスク 5「手紙（友)」とタスク 6「投書」は中国語母語話者の漢語の使用が多いである。タスク 12 において、学習者の漢語動詞の使用が母語話者より多いことが分かった。

4. 4. 4 和語動詞と漢語動詞の使用とタスクの関係

和語動詞と漢語動詞の使用率はほぼ一致している。和語動詞の使用率順は韓国（7.8%）＞日本（7.6%）＝中国（7.6%）で、漢語動詞の使用率順は中国（1.2%）＞韓国（1.1%）>日本（0.9%）である。

延べ語数の折れ線グラフでは、和語動詞の使用数の縦棒グラフはほぼ一致しているが、漢語動詞の縦棒グラフにおいて、多少ずれがあると見られる。

次は 100 語における和語動詞と漢語動詞の使用数を降順で示した。

表 16. 和語動詞と漢語動詞の使用数の降順

順番	タスク番号	和語使用数	タスク番号	漢語使用数
1	9	10.37	3	2.03
2	2	9.21	6	1.83
3	8	8.75	5	1.47
4	12	8.52	4	1.23
5	1	7.60	10	0.91
6	7	7.31	1	0.91
7	10	7.07	11	0.80
8	11	6.97	7	0.71
9	5	6.97	9	0.63
10	4	6.59	8	0.48
11	6	5.95	12	0.29
12	3	5.38	2	0.10

100 語における和語と漢語の使用数の順番から見ると、例タスク９:和語１－漢語９、タスク２：和語２－漢語 12、タスク８：和語３－漢語 10 などのように和語動詞が多い文章には漢語動詞が少なく、漢語動詞が多い文章では、和語動詞が少ない傾向が見られる。つまり、和語動詞が多く使用されている文章の中では、漢語動詞の使用が少なく、その一方、漢語動詞がよく使用される文章の中では、和語動詞の使用が少ないことが明らかになった。

そこで、和語の延べ語数の図表から見ると、100 語における使用数は約 5.4 から 10.4 の範囲で変動し、その二つの数字の平均値 7.9 であり、それを分かれ目として、本研究

は 12 タスクの中で使用数大なり 7.9 の場合は和語動詞の使用が比較的多く、小なり 7.9 の場合は和語動詞に使用が比較的少ないと定める。比較的和語動詞の使用が多い文の内容と文体を見ると、以上のようになる。

タスク９（広報紙で国の料理を紹介する、広報紙、不特定の読者に向けた表現）
タスク２（友人に図書を借りる、メールの依頼文、特定の親しい友人）
タスク８（先輩に起こった出来事を友人に教える、ケータイの返信メール文、特定の親しい友人に対し、親しみが感じられる表現・言葉遣い）
タスク 12（小学生新聞で七夕の物語を紹介する、小学生新聞での紹介文、不特定の小学生新聞の読者に対し、この話を知らない人に分かるように記述される）である。

和語がよく使われているタスクの特徴を見ると、調理の作り方の紹介、親しい友人に対するメール、小学生を読み手とする新聞であって、どれも話題が日常的で、インフォーマルの文章だと思われる。そこで、各タスクの具体的な内容を見て、和語が多用される原因を分析する。タスク９は料理を作る方法について書かれた文章であり、料理を作る手順を記述する際に、和語動詞が多く使用され（たとえば水を入れるはよく使われ、水を注入するというのはほぼ使われていない）、そのため、和語動詞の使用率が多いことは当然だと考える。次は、タスク２は友人に対するメール文で、くだけた文章で、書き言葉であっても、話し言葉に近い語調で書かれている。また、タスク８は４コマの漫画を具体的に描写するタスクで、それを描写するに当たって、倒れる-29、運ぶ-26、飲ます-24、行く-16、歌う-13、飲む-12 などの動詞が使う必要があり、また、友人にメールで教えることが前提で、くだけた口調で書かれており、和語動詞の使用が多い理由と思われる。最後に、タスク 12 は新聞に載せる予定だが、読み手は小学生である。書き手はそのことを配慮し、語彙の面の特徴は、漢語よりも和語を選ぶ傾向が見られる。そのように、①読み手が特定で、親しい関係である人である、②日常的な話題について書かれた文章、③友人へのメール、④読み手を配慮し、読みやすく分かりやすく書かれたインフォーマルの文章の中では、和語動詞の使用が多いことが分かった。そのような、文章において、表 21 のデータを参考し、学習者の漢語使用率は母語話者より多い傾向が見られた。つまり、意見文データのようなフォーマルの文章で学習者が漢語動詞の使用頻度は母語話者より少ない一方、インフォーマルの文章において、学習者が和語動詞

の使用数は母語話者より少ない傾向が見られた。

次に、漢語動詞は和語動詞を分析する方法と同じで方法で考察する。母語話者のデータにおいて、日本語母語話者の和語の延べ語数の図表から見ると、100 語における使用数は約 2.0 から 0.1 の範囲で変動し、その二つの数字の平均値 1.1 であり、それを分かれ目として､12 タスクの中で使用数大なり 1.1 の場合は和語動詞の使用が比較的多く、小なり 1.1 の場合は和語動詞の使用が比較的少ないと定める。漢語動詞が比較的多く使われるタスクの上位三位は､ちょうど和語動詞の使用が少ないタスクの上位三位のタスクである。それは、前文で和語動詞と漢語動詞の使用傾向が一致する。比較的和語動詞の使用が多い文の内容と文体を見ると、以下である。

タスク３（デジカメの販売台数に関するグラフを説明する、レポートの一部であるグラフの説明、不特定のレポート（論文）の読者に向けた書き方になっている）
タスク６（市民病院の閉鎖について投書する、投書文、不特定の読者に向けた書き方）
タスク５（入院中の後輩に励ましの手紙を書く、励ましの手紙、特定に親しい友人に対し、親しみが感じられる表現・言葉遣い）
タスク４（学長に奨学金増額の必要性を訴える、要望を伝えるメール文、特定の目上で面識のない人）である。

漢語動詞がよく使われているタスクの特徴を見ると、タスク 3 はレポートの文章、タスク 6 は新聞へ投書する意見文、タスク４は「疎（目上)」の学長へのメールである。

タスク５は「入院中の後輩に励ましの手紙を書く（特定に親しい友人に対し、親しみが感じられる表現･言葉遣い)」である。特定の親しい友人に対するメールであっても、漢語動詞の使用が多い。その理由を明らかにするために、出現する語彙を見ると、入院-33　退院-18　専念-8　勉強-6　相談-5　就職-4　経験-4　連絡-4 卒業-3　応援-3 であり、そこから、今回のテーマと密接する語（入院-33　退院-18)、またほかの語彙も普段よく使用する漢語(　勉強-6　相談-5　就職-4　経験-4　連絡-4 卒業-3　応援-3) であり、友人に対するメールにかかわらず、漢語動詞の使用が多い理由だと考える。ここから、すべての漢語が“硬い”感覚を与えるのではなく、普段でよく使われ、馴染みがある漢語も多数存在していることが分かった。

タスク 5 以外に、どちらのタスクでも、①読み手は不特定、②目上で面識のない人、③フォーマルな文章、④非日常的な話題だと考える。そのような文章では漢語動詞の使

用が多いことが分かった。

4.4.5 和語動詞を漢語動詞に書き換える必要性について

和語動詞を漢語動詞に書き換える必要性を検証する際に、タスク 3 はデジタルカメラの販売台数のグラフについての説明というタスクを選んだ。その理由は、まず、タスク 3 はグラフが提示されて、それを説明する文章であり、説明の内容はかなり決められていて、同じような意味を表す際に、和語動詞か漢語動詞を使われるかを分析する差異に有効性があるデータと考える。また、タスク 3 はレポートの一部であるグラフの説明として体裁であり、硬い文章の中で和語動詞を漢語動詞に書き換える必要性があるかにおいて、有効性があるデータだと考える。その二つの理由で、タスク 3 を選んだ。そのタスクに出現した使用頻度が上位 5 位であり、またその上位 5 位の漢語動詞の類義漢語を抽出した。

以下はタスク 3 の中で和語動詞を漢語動詞に書き換える必要性について検討するために、類似の意味を表し、接続する語彙も類似し、タスク 3 の中で母語話者が多く使用される漢語動詞とその類義関係である和語動詞を見てみると、以下のようになる。

表 17. タスク 3 で多く使用される漢語動詞とそれの類義関係にある和語動詞

	類義漢語	使用数	類義漢語使用合計数	類義和語	使用数	類義漢語使用合計数
1	増加する 上昇する 向上する	14 4 1	19	伸びる 伸ばす 上げる 増える 上向く	9 5 1 2 1	18
2	減少する 下落する 激減する 下降する	9 2 1 1	13	落ち込む 減る 下がる 下回る 落ちる	10 4 2 1 1	18
3	回復する	7	7	戻る 戻す	1 1	2
4	販売する	6	6	売れる 売り上げる 売る 売り出す	7 4 1 1	13
5	記録する	4	4	変わる （変わらず）	2	2
合計		49		53		

１～５行目の類義語は、デジタルカメラの販売台数のグラフを説明するに当たって、よく販売台数、売り上げ、～台（まで/ほど）などの語彙と接続するケースが多いという共通点が見られる。

漢語動詞対和語動詞の使用頻度から見ると、一行目のデータ 19 回-18 回、二行目 13 回-18 回、三行目 7 回-2 回、四行目 6 回-13 回、5 行目 4 回-2 回であり、漢語対和語動詞の使用は合計で 49 回-53 回である。そこから、和語動詞と漢語動詞は同じぐらいに使われていて、和語動詞の使用はやや多いことが分かる。

今回のデータでタスク 3 は漢語動詞が一番多く使われ、和語動詞が一番少なく使われているデータで、最も漢語動詞がよく使われているタスクであるが、和語動詞は漢語動詞と同じような意味を表す際に多数使われていることが分かった。今回のタスク３のデータでは表１～5 行目のデータのように、類義関係であり和語動詞と漢語動詞は同じような意味を表す際に、和語動詞と漢語動詞に接続している語彙は変わらなく（表 17 の１～５行目の類義語は、販売台数、売り上げ、～台（まで/ほど）などの語彙と接続する共通点がある)、今の段階では使い分けの基準は不明であることになった。

4.4.6 母語話者と学習者の和語動詞と漢語動詞の使用差異

表 18 は母語話者のデータにおいて、使用数は 10 回以上であるが、学習者に使用されない和語である。

表. 18　学習者に使用されない和語

タスク	語彙	使用順位	使用頻度
3	落ち込む	2	10
9	握る	9	13

「落ち込む」は学習者に使用されていない理由は、「～万台まで落ち込む」「売り上げがお落ち込む」などを使ったが、学習者は、「落ち込む」を使わず、「減少する」「下落する」「激減する」「下降する」を使い、同じ意味を表した。ここからは、学習者は「落ち込む」を売り上げ・業績などが下がる意味合いは把握していないか、把握しても使用傾向がないかと推測する。

「握る」は学習者に使用されていない理由は非常に簡単で、タスク 9 は国の料理を紹

介する文書であり、母語話者はよくお寿司の作り方を紹介する文が多いので、「握る」を多用するからである。

表 19 は母語話者のデータにおいて、使用数は 10 回以上であるが、学習者の使用が母語話者との差異が見られる和語動詞である。

表 19. 使用頻度の差異が見られる和語動詞

タスク	語	母語話者の使用順位	使用回数	中国母語話者の使用順位	使用頻度	韓国母語話者の使用順位	使用頻度
1	伺う	7	14			9	10
4	増やす	2	27	3	26	8	10
4	上がる	6	10	56	1	26	3
6	無くなる	2	25	6	10	4	27
6	通う	4	21	7	9	14	5
7	行く	4	30	1	51	3	37
9	入れる	3	57	1	122	1	100
9	乗せる	5	19	58	2	8	18
10	考える	3	30	3	14	7	9
10	行う	5	13	8	8	32	2
11	知る	4	11	38	1	13	6
12	言う	2	102	2	84	3	68
12	働く	3	68	22	12	13	14
12	織る	5	40	6	27	20	10
12	作る	7	32	3	59	2	81
12	見付ける	8	28	54	3	38	4
12	遊ぶ	9	26	28	8	16	12
12	探す	12	21	16	15	37	5

12	出会う	15	13	75	2	33	6
12	暮らす	15	13	19	13	45	3
12	考える	15	13	46	4	20	10
12	引き離す	22	11	106	1		

使用頻度の差異が見られる和語動詞が多いが、文章の内容の違いからで引き起こしたのは大きな原因だと考える。たとえば、タスク 9 の「入れる」「乗せる」の使用差異は紹介する調理の作り方の違いから引き起こしたものである。タスク 12 は使用差異が見られる語が多いが、それは三ヶ国の七夕の物語は、もともと異なっているからである。筆者は分析した結果、唯一の意味用法において差異が見られたのはタスク４の「上がる」である。「上がる」の母語話者の使用例は以下のようになる。

（７４）先日行われた学生総会で、「学生向け奨学金を増やしてほしい」という要望が多くの学生から挙がっておりました。【J002】

（７５）その中で、「奨学金を増額して欲しい」という意見が多く挙げられました。【J029】

母語話者は「要望が挙がる」「意見が上がる」のような二つのパターンがよく見られた。

学習者の言い換えた文を見ると、以下の通りである

（７６）昨日留学生の 2010 年反省会をやりましたが、その時 2011 年には留学生を対象とする奨学金を増やす必要があるという意見が出ました。【C003】

（７７）先日、留学生会議を行い、様々なことについての意見が出されましたが、特に留学生に対する奨学金のことが最も重要な件として挙げられました。【K009】

学習者は「上がる」より「意見が出る」を使う傾向がみられた。そのようなコロケーションは母語話者にも多数使用された。韓国母語話者は「奨学金/金額が上がる」を使用した。「意見/要望が上がる」のは学習者に使用されていない。

表 20 は母語話者のデータで、使用数は 5 回以上であるが、中国或いは韓国母語話者のデータにおいて使用頻度に差異が見られる漢語動詞である。（下線は筆者は差異が見られた語に施したものである）

表 20. 使用頻度の差異が見られる漢語動詞

タスク	語彙	母語話者の使用順位	使用頻度	中国母語話者の使用順位	使用頻度	韓国母語話者の使用順位	使用頻度
1	所蔵	1	7	4	1		
3	増加	1	14	1	10	5	3
5	専念	3	8	18	2	19	1
7	紹介	1	5	1	17	1	8
11	勉強	1	9	1	20	1	13
12	結婚	1	15	1	38	1	29
12	注意	2	6			11	1

4.4.7 差異の分析

『YUN 書き言葉コーパス』の研究方法はすべて、意見文データと同じである。しかし、学習者の言い換えた文は母語話者にすべて使用されており、意見文データと違い、マークの標記や「なつめ」の検索を行わなかった。

4.4.7.1「所蔵」

「所蔵」の母語話者の使用順位は 1 位であり、7 回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「普及」の使用順位は 4 位であり、1 回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、韓国語母語話者に使用されていない。

『新明解』では、「所蔵」は「自分の（所の）物として、しまっておくこと（もの)」と説明されている。

①母語話者の使用例：

（７８） 実は、先生の研究室に所蔵されている本について、おうかがいしたいことがございます。 【J012】

（７９） 図書館の OPAC で検索してみたところ、図書館には所蔵されておらず、田中先生の研究室にあるということがわかりました。 【J013】

「図書館に所蔵される」、「先生の研究室に所蔵される」という二つのパターンが主に

見られる。

②学習者の使用例：

学習者に一回のみ使用された。

（８０）本日図書館に「環境学入門」という本を借りに行ったところ田中先生の研究室に所蔵されているとお聞きしました。【C049】

③学習者の言い換えた例：

（８１）図書館ホームページにて先生の研究室にのみあることを知りました。【C001】

（８２）田中先生の研究室にその本が置いてあると聞きまして、大変失礼ですが、短い時間でもよろしいですから、その本を貸していただけませんでしょうか。【C002】

（８３）今回、先生にこのようなメールをお送りすることになったのは、先生の研究室にある「環境学入門」という本をお借りすることができるかどうかお聞きしたいためです。【K004】

（８４）図書館で調べてみたところ、図書館には置いておらず、田中先生の研究室にあるということを知りました。【K006】

④考察

「所蔵する」は　母語話者【J012】【J013】【J015】【J021】【J022】【J027】【J030】合計７名の母語話者に使用された。しかし、学習者に１回のみ使用された。学習者は「所蔵する」のかわり、「～にある」「～に置いてある」を使用した。その二つの表現は母語話者も多く使用している。

4.4.7.2「増加」

①使用状況：以下の表 21 の通りである。

表 21.「増加」と「増える」の使用状況

語彙素	日本順位	回数	中国順位	回数	韓国順位	回数
増加	1	14	1	10	5	3
増える	16	2	2	13	2	10

②考察

母語話者は「増える」より「増加する」を多く使用しているが、中国語母語話者は「増加する」と「増える」を同じぐらいに使用し、韓国母語話者は「増える」を使用する傾向が見られた。

4.4.7.3「専念」

「専念」の母語話者の使用順位は3位であり、8回使用された。中国語母語者のデータにおいて、「専念」の使用順位は18位であり、2回使用した。韓国語母語話者のデータにおいて、「専念」の使用順位は19位であり、１回のみ使用された。

『新明解』では、「専念」は「ある事に心を集中すること。専心」と説明されている。

①母語話者の使用例：

（８５）今は早くけがを治すことに専念しなさい！」って言われたんだ。　【J001】

（８６）就職活動や卒業論文の心配もあると思いますが、まずは治癒に専念した方がよいでしょう。　【J009】

「ケガを治すことに専念する」「治癒/治療に専念する」その二つのパターンが多く見られた。

②学習者の使用例：

（８７）病気の治った私は最悪の情況―つまり大学に落ちることへの心の準備ができたので、意外に試験勉強に専念できました。　【C038】

（８８）退院後、まず論文のことに専念し、それができたら、また就職活動を行いました。　【C003】

（８９）なのでまずは何の考えや不安を感じずにお体の回復に専念してください。　【K034】

③中国語母語話者の言い換えた例：

（９０）交通事故で李さんのせいじゃなくて、安心で治療してください。　【C049】

（９１）良好な心理状態で治療を受けてください。　【C049】

（９２）だから、安心してけがが治るのを待っていてね。　【C038】

④韓国語話者の言い換えた例：

（９３）だからあまり心配せずに、今は体を回復させることだけに集中してほしい。　【K009】

（９４）退院した後が大変忙しくなるかもしれないけど、そのためでも今は体に気をつけるしかないと思うよ。　【K013】

（９５）だからあまり心配しないほうがいいよ。　【K020】

このように、

⑤考察

学習者は勉強や論文に専念することを表す際に「専念する」を用いたが、母語話者は「ケガを治すことに専念する」「治癒/治療に専念する」のような使用で「専念する」を使用した。コロケーションの違いが分かった。

4.4.8「意見文データ」と『YNU 書き言葉コーパス』の比較

以下は二つのコーパスにおいて、母語話者のデータを用いて、100 語あたりの和語動詞と漢語動詞の使用状況を比較したものである。

表 22.「意見文データ」と「YNU 書き言葉コーパス」の動詞使用の比較

	和語動詞	漢語動詞
意見文	7.35	1.79
YNU	7.6	0.94

表 22 から、母語話者のデータにおいて、「意見文データ」と「YNU 書き言葉コーパス」と比較し、和語動詞の使用が同じぐらいであるが、漢語動詞の使用は意見文データが明らかに多いことが分かった。「YNU 書き言葉コーパス」にフォーマルの文章があるが、インフォーマルの文章が比較的多い。それと比べ、「意見文データ」は「インターネットが普及する現在、新聞と雑誌が必要かどうか」について意見を述べる内容で、やや硬い話題で、フォーマルの文章だと考える。そのため、「意見文データ」では、漢語動詞の使用が多いと考える。

5.まとめ

本研究では、『日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース』と『YUN 書き言葉コーパス』を用いて、量的研究と質的研究を行った。

「意見文データ」において、一万語における和語動詞の使用は、学習者は母語話者より比較的多く、その一方、一万語における漢語動詞の使用は母語話者より比較的少ないことが明らかになった。学習者の漢語動詞の使用が日本語母語話者より少ないことで、レポートなどのやや硬い文章を書く際に、文章の「硬さ」が足りなくなり、これが不自

然な文章だと思われる原因だと考えている。

次に、意見文データの質的研究を行い、母語話者がよく使用し、学習者の使用が見られない漢語動詞を明らかにした。たとえば、「情報を発信/配信する」「情報を伝達する」は学習者がそのようなコロケーションを使用せずに、「情報を伝える/流す」などの表現を用いて、同じような意味を表していた。また、「新聞/雑誌を購入する/閲覧する」は学習者を使用せず、「買う」「見る」「読む」の和語動詞を使用する傾向が見られた。それ以外に、母語話者の使用が学習者より、明らかに多いコロケーションもあった。たとえば、母語話者が「普及する」を使用する場合に、学習者は「広がる」「広く使われる」を使用していた。また、母語話者が「入手する」を使用する場合に、学習者は「得る」「手に入れる/入る/する」を使用した。さらに、類義関係にある和語動詞と漢語動詞のペアにおいて、母語話者は「使用する」、または「信頼する」の漢語動詞の使用傾向が見られる。学習者はその反対に、「使う」または「信ずる（信じる）」の使用傾向が見られた。しかし、学習者の漢語動詞の使用は母語話者より少ないが、学習者が使用した和語動詞、また和語動詞が含むコロケーションは母語話者にも多く使用され、学習者が間違えているわけではない。ただ、漢語動詞の使用数が少ないため、文章の「硬さ」が足りず、不自然な文章だと思われる原因だと考えている。それに、学習者は母語話者がよく使用する漢語動詞を使用せず、異なる表現を使っている場合、その表現を「なつめ」を用いて判断し、いくつかの日本語に存在していないコロケーションが見られた。たとえば、「情報を広布する」「情報を自分のものにする」「情報ができる」である。これらは、学習者が適切な表現を思い出せず、いつも使っている動詞を自分なりに解釈し、使ったのではないかと考える。また、今回のデータでの使用は見られなかったが、「なつめ」では存在する表現に「情報を流通する」「情報をアップする」「情報を受ける」「情報を取る」「情報に接する」があった。以上のような、日本語に存在していない表現と日本語に存在しているが、今回のデータでは母語話者の使用が見られない表現を書き直し、母語話者が多く使用している漢語動詞を学習者に提案したい。

また、意見文データにおいて、和語動詞の使用は差異が見られたものがあるが、漢語動詞より差異がある語の数が少なかった。母語話者が「情報を得る」を使用する場合に、中国語母語話者は「情報をもらう/取る/手に入れる/入る」を使用し、韓国語母語話者は「情報を接する/情報を手に入れる/入る」を使用していた。このことから、母語が異なる場合、使用する傾向がある語も異なることが分かった。また、母語話者の「あげる」という和語動詞の多用は「こと」「点」「例」「理由」などをこれから説明していく際、

あるいは説明したことに言及する際に使用する。しかし、学習者のデータの中で、「これから、～について説明していく」という情報を読み手に与えず、直接に「こと」「点」「理由」を述べていく。その理由で学習者は「上げる」の使用が少ない。それは、物事を述べる際の習慣や癖だと考え、すべて日本語能力や語彙の習得に関係があるに限らない。また、母語話者が「比べる」を多用する理由は、両者を比較する際に、「N と比べて～」という文型をよく使用している一方、学習者は「N/V より」という文型をよく使用しているからである。

『YNU 書き言葉コーパス』を調査した結果、和語・漢語動詞の延べ語数において、調査対象者間の使用率の差異は少なかった。異なり語数において、和語動詞の使用の差異は少ないが、漢語動詞は中国語母語話者の使用がやや多いことが分かった。次は、タスク別の和語・漢語動詞の使用頻度において、学習者と母語話者は和語動詞の使用差異が比較的少なく、漢語動詞の使用差異が比較的多いことが分かった。そして、和語・漢語動詞の使用と文章のタスクの関係において、和語動詞が多い文章には漢語動詞が少なく、漢語動詞が多い文章では、和語動詞が少ない傾向が見られた。和語動詞の使用が多いタスクの特徴をまとめると、①読み手が特定で、親しい関係である人であり、②日常的な話題について書かれた文章であり、③友人へのメールであり、④読み手を配慮し、読みやすく分かりやすく書かれたインフォーマルの文章である。その反対に、①読み手が不特定で②目上で面識のない人におけた、③フォーマルな文章で、④非日常的な話題について述べているような文章では漢語動詞の使用が多いことが分かった。なお、和語動詞を漢語動詞に変更する必要性について考察した結果、母語話者のデータにおいて、同じ意味を表し、同じ語に接続する場合も、和語動詞と漢語動詞の使用頻度が同じぐらいであり、その使い分けの基準を明らかにすることができなかった。

『YNU 書き言葉コーパス』において、母語話者と学習者の間で和語動詞と漢語動詞の使用差異が見られた語をいくつか取り上げた。その中で、文章の内容の問題ではなく、動詞の使用傾向に違いが見られた語のみ、質的分析を行われた。たとえば、和語動詞において、母語話者は「売り上げが落ち込む」の使用頻度が高いが、学習者のデータでは、その語の使用が見られず、「減少する」「下落する」「激減する」などを使用した。母語話者「意見・要望が上がる(挙げる)」は多用する一方、学習者は「意見が出る/ある」を使用していた。和語動詞の使用において、差異が見られる語は少なかった。そして、『YNU 書き言葉コーパス』において、使用頻度の差異が見られた漢語動詞は和語動詞の数より多かったが、漢語動詞の使用差異が見られた語は「意見文データ」より少ない。

学習者の使用が比較的少ない動詞は「所蔵する」「専念する」「増加する」であり、その中、母語話者は「増える」に比べ、「増加する」を多用する傾向があり、学習者はそれと反対に、「増える」を多用する傾向が見られた。

「意見文コーパス」と「YNU 書き言葉コーパス」を比較すると、「YNU 書き言葉コーパス」では、和語動詞の使用が「意見文データ」より多く、漢語動詞の使用が少ないことが明らかになった。母語話者と学習者の意見文データにおいて、漢語動詞の使用の差異が大きいが、「YNU 書き言葉コーパス」のデータにおいては比較的差異が少ない。これは、学習者の日本語レベルを考えた場合、「意見文データ」は海外の大学で日本語を学習する大学生であり、N2 レベルの学習者が多いからである。その一方、「YNU 書き言葉コーパス」は日本に滞在し、特にインフォーマルの日本語のインプットが多く、N1 レベルの学習者が多いである。そこから、学習期間や学習レベルが上がるにつれ、『YNU 書き言葉コーパス』に掲載されたような作文において、学習者と母語話者の和語と漢語の使用にあまり差異が見られないことが分かった。

6.今後の課題

まず、学習者と母語話者の和語・漢語動詞の使用実態の差異を引き起こす原因を明らかにするには、教科書の単語リストに載っている和語・漢語動詞の比率、また導入時期なども調べる必要性がある。

さらに、今回の研究では、母語話者は使用頻度が上位である和語動詞と漢語動詞を取り上げて、母語話者と学習者の使用差異を分析した。しかし、『YNU 書き言葉コーパス』において、中国語母語話者は漢語動詞の使用率が母語話者と韓国語母語話者に比べもっとも多く、さらに、漢語動詞の使用頻度が母語話者より明らかに多いタスクがあることが分かった。今後、そのようなタスクやコーパスにおいて、中国語母語話者の使用が多いが、母語話者の使用が少ない和語・漢語動詞を明らかにし、分析を行いたいである。

なお、今回のデータで、類義関係である和語動詞と漢語動詞の使い分けが明らかにできなかったが、今後はそれについて考察していきたいと考える。

参考文献

石黒圭・筒井千絵（2009)『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク

石黒圭（2015)「書き言葉・話し言葉と『硬さ・柔らかさ』－文脈依存性をめぐってー」『日本語学』34(1)，明治書院，pp. 14-24

内丸裕佳子（2012)「中級日本学習者が望む学習とは何か」『大学教育研究紀要』第 8 号 pp. 61-72

金澤裕之(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』 ひつじ書房

児玉茂昭（2013)「作成支援システムとコーパス検索システム」『やさしい日本語』pp. 157-175

国立国語研究所（1972)『電子計算機による新聞の語彙調査 3』(秀英出版)

廣恵太 ・伊藤毅志 ・古郡廷治（1995)「コーパスから抽出した単語間類似度に基づく意味ネットワーク」『全国大会講演論文集第 51 回人工知能と認知科学』pp. 13-14

呉守鎮（2007)「動詞類義語に関する考察」漢陽大学

陳麗蛍（2011)「現代日本語における和語動詞と漢語動詞の意味・用法上の異同について」

日本語教育学会(2005)『新版日本語教育辞典』大修館書店 pp. 175

宮内佐夜香（2012)「接続助詞とジャンル別文体的特徴の関連について」国立国語研究所 pp. 39-52

森篤嗣（2013)「語彙から見た『やさしい日本語』」『やさしい日本語は何を目指すか』ココ出版 pp. 267-273

参考サイト

Lang8

http://lang8.com/281516/journals/190399627679475648162766335415168245348

言語処理学会 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnlp/-char/ja

Js-STAR http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm

日本言語学会 http://www.ls-japan.org/modules/documents/index.php?cat_id=23

日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース

http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/terms.html

茶まめ　http://download.unidic.org/

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導頂いた指導教官の長谷川守寿准教授に深く感謝の意を表します。御多忙にもかかわらずいつも熱心にご指導くださり、本研究の全般に渡り多大なるご支援、ご協力を賜りました。

最後に、長谷川ゼミの皆様からいつも貴重なご意見や励ましを頂ました。心より感謝いたします。